

支え合い・助け合いが活きる!

元気の出るまち泉

第3期 泉区地域福祉保健計画 (平成28年度~32年度)



このたび泉区では、「支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」を基本理念として、第3期泉区地域福祉保健計画を策定しました。平成28年度から32年度までを計画期間として、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、身近な地域の支え合いの仕組みづくりを進めます。

高齢化の進展や人口減少が見込まれる中、誰もが心身ともに健康で、これまで以上に地域を活性化していくことが重要です。そのため、「健やかに過ごせるまち」「人と人、活動と活動のつながりのあるまち」「地域活動への参加がすすむまち」の3つを推進の柱とし、区民・事業所・関係機関の皆様、公的機関が協働して地域の課題解決に向けた取組を進めます。

平成28年11月に、泉区は区制30周年を迎えます。引き続き、皆様と共に5年後、10年後も安心して生活できる泉区のまちづくりに取り組んでまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

本計画の策定にあたりましては、泉区地域福祉保健推進協議会、第3期泉区地域福祉保健計画策定委員会の皆様にご熱心に御議論いただきとともに、区民意見募集などを通じて、区民の皆様をはじめ関係者の皆様から多くの貴重な御意見・御提案をいただきました。心から感謝申し上げます。

横浜市泉区長 下村 直



このたび、第3期泉区地域福祉保健計画が策定されました。計画策定にあたっては、関係機関・団体の皆様をはじめ、様々な方々の御協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

さて、この第3期泉区地域福祉保健計画は、泉区社会福祉協議会が策定する「泉区地域福祉活動計画」と泉区役所が策定する「泉区地域福祉保健計画」が同じ計画の理念に基づいて策定されているため、両者の計画策定を一体的に進め、区社協と区役所が共同事務局として計画策定を担って参りました。

この計画は、今後5年にわたり、泉区の地域福祉保健に関して取り組むべき重要な計画であります。計画遂行にあたっては、区社協は、区計画の実行とともに、地域が中心に進める地区別計画の実現のために地区支援に全力で取り組んで参ります。

計画の理念である「支えあい・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」を区民の皆様と共につくりあげていきたいと思っております。

社会福祉法人 横浜市泉区社会福祉協議会会長 大貫 芳夫



目 次

第1章 策定にあたって

1	はじめに（計画策定の趣旨）	2
2	第1期計画・第2期計画の経過	5
3	泉区を取り巻く状況	7
4	基本理念を具体化するまちのイメージ	16
5	第3期計画の「推進の柱」	17

第2章 地区別計画

1	地区別計画の位置づけと役割	18
2	地区別計画	19
	中川地区	20
	緑園地区	22
	新橋地区	24
	和泉北部地区	26
	和泉中央地区	28
	下和泉地区	30
	富士見が丘地区	32
	上飯田地区	34
	上飯田団地地区	36
	いちよう団地地区	38
	中田地区	40
	しらゆり地区	42

第3章 区計画

1	区計画の位置づけと役割	44
2	具体的取組	
	推進の柱1 健やかに過ごせるまち	46
	重点項目1 健康寿命を延ばすための健康づくりを進める	
	重点項目2 安心して暮らし続けられる環境をつくる	
	推進の柱2 人と人、活動と活動のつながりがあるまち	52
	重点項目1 地域の中でより多くの人との交流を進める	
	重点項目2 活動のネットワークと連携を強化する	
	推進の柱3 地域活動への参加がすすむまち	56
	重点項目1 地域活動の担い手を養成する	
	重点項目2 地域の活動に関心を持つ人を増やす	

第4章 計画の推進体制・進行管理

1	計画の推進体制	61
2	計画の進行管理	61

参考資料

1	第3期泉区地域福祉保健計画策定の経緯	64
2	12地区意見交換会	65
3	泉区地域福祉保健推進協議会 委員名簿	66
4	第3期泉区地域福祉保健計画策定委員会 委員名簿	67

第1章 策定にあたって

1 はじめに（計画策定の趣旨）

横浜市における地域福祉保健計画

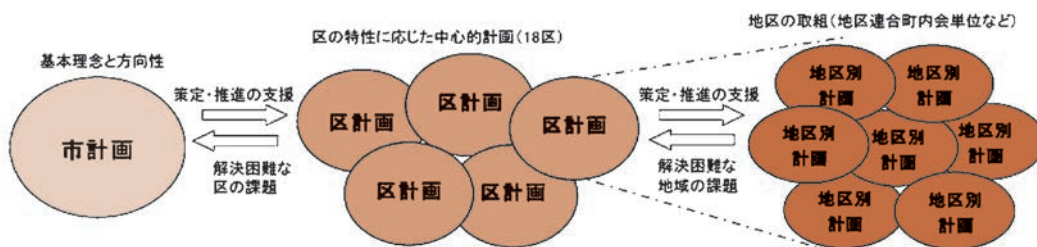
横浜市地域福祉保健計画は、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、住民、事業者、公的機関（行政・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近な地域の支え合いの仕組みづくりを進めることを目的としています。（第3期横浜市地域福祉保健計画より）

平成12年に改正された「社会福祉法」の第107条に、地域福祉の推進に関する事項を定める計画として市町村地域福祉計画が位置づけられました。

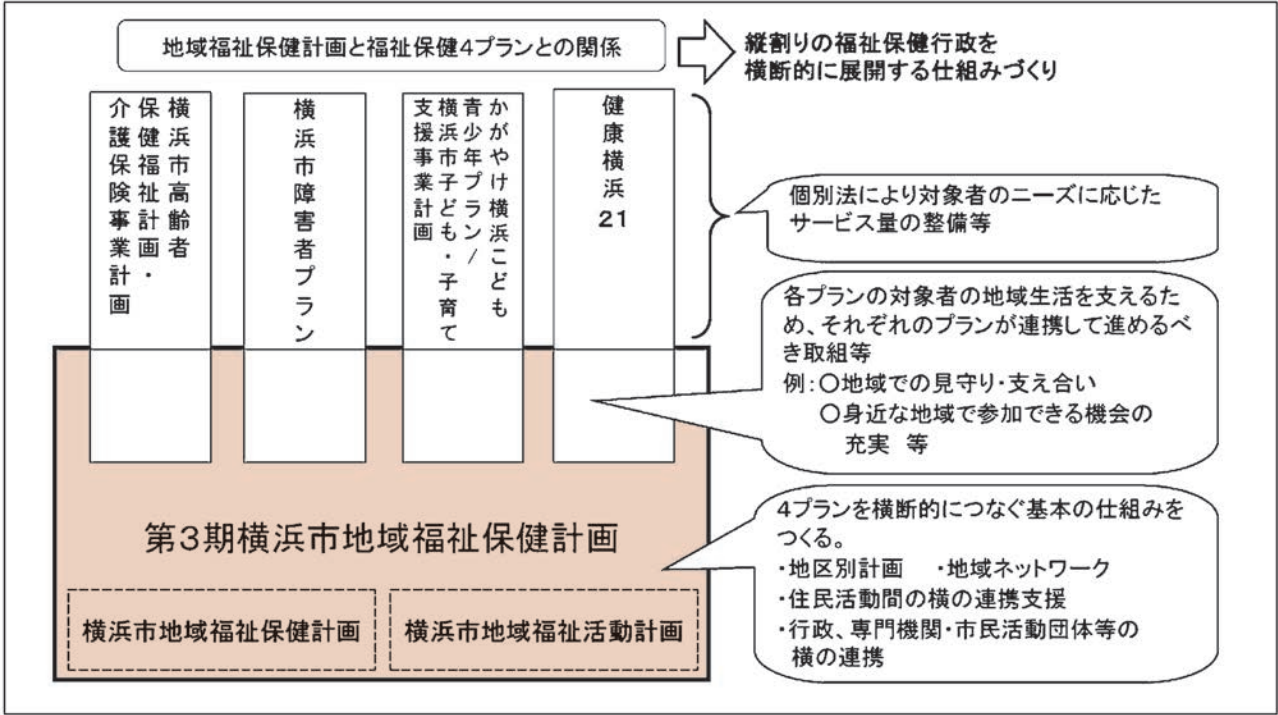
横浜市の計画は、市計画・18区の区計画・地区別計画で構成し、地域の生活課題にきめ細かく対応しながら推進するものです。なお、第2期計画からは、福祉・保健の両分野を一体的に取り組むことから、計画の名称を「横浜市地域福祉保健計画」として推進しています。これは、誰にとっても関心を持ちやすい、「健康」に関する取組を地域福祉の取組と一体的に推進することが、幅広い市民参加につながると考えているからです。

【市計画・区計画・地区別計画の関係（第3期横浜市地域福祉保健計画より）】

	よこはま笑顔プラン	区計画	
	市計画	区(全体)計画	地区別計画
位置づけ	基本理念と方向性を提示し、区計画推進を支援する計画	区の特性に応じた、区民に身近な中心的計画	地区の課題に対応するため、地区が主体となり、区・区社協・地域ケアプラザと協働して策定する計画
盛り込む内容	<ul style="list-style-type: none"> 分野別計画を横断的につなぎ、地域福祉保健に関する施策を調整するための連携した取組 区計画を進めるために必要な市や市社協による支援策、区域で解決できない課題に対する市域での取組 市民の活動の基盤整備に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉保健に関する区の方針 地区別計画の活動を支える取組 区域全体の福祉保健の共通課題、住民主体の活動では解決できない課題、区域で取り組むべき課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組 	<ul style="list-style-type: none"> 住民主体の活動により解決を図る課題に対する取組 地域の生活課題の解決に向けた、地域の人材と資源を生かした身近な支えあいや健康づくりの取組 支援が必要な人の日常生活に連動した支援策・取組



また、横浜市地域福祉保健計画は、各法を根拠とする福祉保健の分野別計画（高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、障害者プラン、子ども・子育て支援事業計画、健康横浜21）を横断的につなぐ基本の仕組みをつくる計画と位置づけられています。



泉区地域福祉保健計画が目指すもの

泉区の地域福祉保健計画は、「支え合い・助け合いが生きる！元気の出るまち泉」を基本理念としています。基本理念が示すまちを実現するために、どのように進めていくかをこの計画の中で表しています。

具体的には、地域が主体的に策定し、地区ごとの課題解決に向けて地域主体の取組を進めていく「地区別計画」と、地区別計画を支えるために、区域に共通する課題解決に向けて、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが、区民や関係機関と協働した取組を進めていく「区計画」の2つで推進していきます。

また、泉区地域福祉保健計画は、泉区社会福祉協議会が策定・推進する、「泉区地域福祉活動計画」と一体化した計画です。地域福祉保健計画と地域福祉活動計画は、いずれも地域福祉保健を推進するための計画であり、相互に補完し、連携・役割分担しながら総合的に推進する必要があります。また、分かりやすいものとなるよう、両計画を一体的に策定・推進しています。

推進にあたっては、区民・活動団体や、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ・関係機関等が協働して取り組みます。また、泉区全体のまちづくりの方向性を定める横浜市都市計画マスタープラン泉区プランとも整合を図りながら、誰もが安心して生活できるまちをつくることを目指します。

2 第1期計画・第2期計画の経過

第1期計画（平成17年度～21年度）

第1期計画では泉区内を連合自治会・町内会のエリアを基にした12の地区に分け、「地区別計画」を策定し、地区ごとに、区民や活動団体等が様々な取組を行いました。地区ごとにそれぞれの目標を設定し、課題解決に取り組むことで、成果をあげてきました。

第2期計画（平成22年度～27年度）

第1期計画は地区別計画のみを推進してきましたが、第2期計画策定にあたり、

- ・地区に共通した課題があること
- ・地区間の連携が必要なこと
- ・地区だけでは解決できない課題もあること

などが明らかになってきました。そこで、それらの課題に対して地域の取組を支援するとともに、第2期計画では区全体の取組の方向性を示す「区計画」を策定しました。さらに、「支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」という基本理念を定め、区計画と地区別計画が同じ方向を目指して活動を進めました。

これにより、第2期計画から、泉区では市計画・区計画・地区別計画の3層の構成となり、地域の多様な課題に対して協働して取り組んできました。

さらに、計画を推進するために、泉区地域福祉保健推進協議会を設置しました。泉区地域福祉保健推進協議会は、12地区の代表と区内の関係機関の委員で構成されています。区計画の進行管理（振り返りと評価）、地区別計画の進捗状況の共有、計画推進の課題やその対応策の検討、新たな提案等を行い、区計画や地区別計画の活動の推進に活かしてきました。

また、泉区地域福祉保健推進協議会が主管となり、毎年「地域福祉保健計画推進イベント」「活動発表会」を開催しました。地域の活動団体の紹介、12地区の1年間の取組を発表する場とし、多くの人に地域福祉保健計画とその取組内容を周知しました。

第2期計画の振り返り

第2期計画の振り返りでは、主な成果や意見として、以下のことが挙げられました。

- 子育て世代や高齢世代を対象とするサロンや趣味のサークル等の活動が活発に展開された。また、障害者や高齢者を支援するための社会福祉施設が数多くあり、事業所の自主製品販売の場や地域の行事を通じた交流を図ることができた。
- 地域活動は活発に行われているが、担い手は固定化している傾向にある。区民意識調査では、多くの人に参加できる働きかけとして「参加に必要な情報の提供」「親しい人から誘われるなどのきっかけ」「体験会など、初めての人が参加しやすくなる工夫」を求める声が多い。
- 地域では健康づくりの取組が、自治会館を会場とした体操教室等、活発に行われている。区民意識調査では、健康づくりを進める環境整備として「簡単にできる運動メニューの情報提供」を求める声が多い。

第3期計画の策定にあたっての課題整理

これらの意見をふまえ、第3期計画の策定にあたっては、以下のように課題を整理しました。

- 地域を元気に活性化させるためには、個人で健康づくりに取り組むことはもちろん、地域活動の中に健康づくりの視点を盛り込むことが重要である。
- 人と人とのつながりを進めていくためには、サロンやグループ内での交流を、団体同士の交流に広げることが必要である。
- 若い世代の担い手の育成は継続した課題である。
- 趣味・特技や、職業で得た専門知識等を活かした活動と、地域活動をつなげるなど、参加のきっかけづくりが必要である。
- 取組をさらに活発にしていくためには、地域の様々な活動の情報収集・整理・発信が必要である。これは全ての取組に共通する。

3 泉区を取り巻く状況

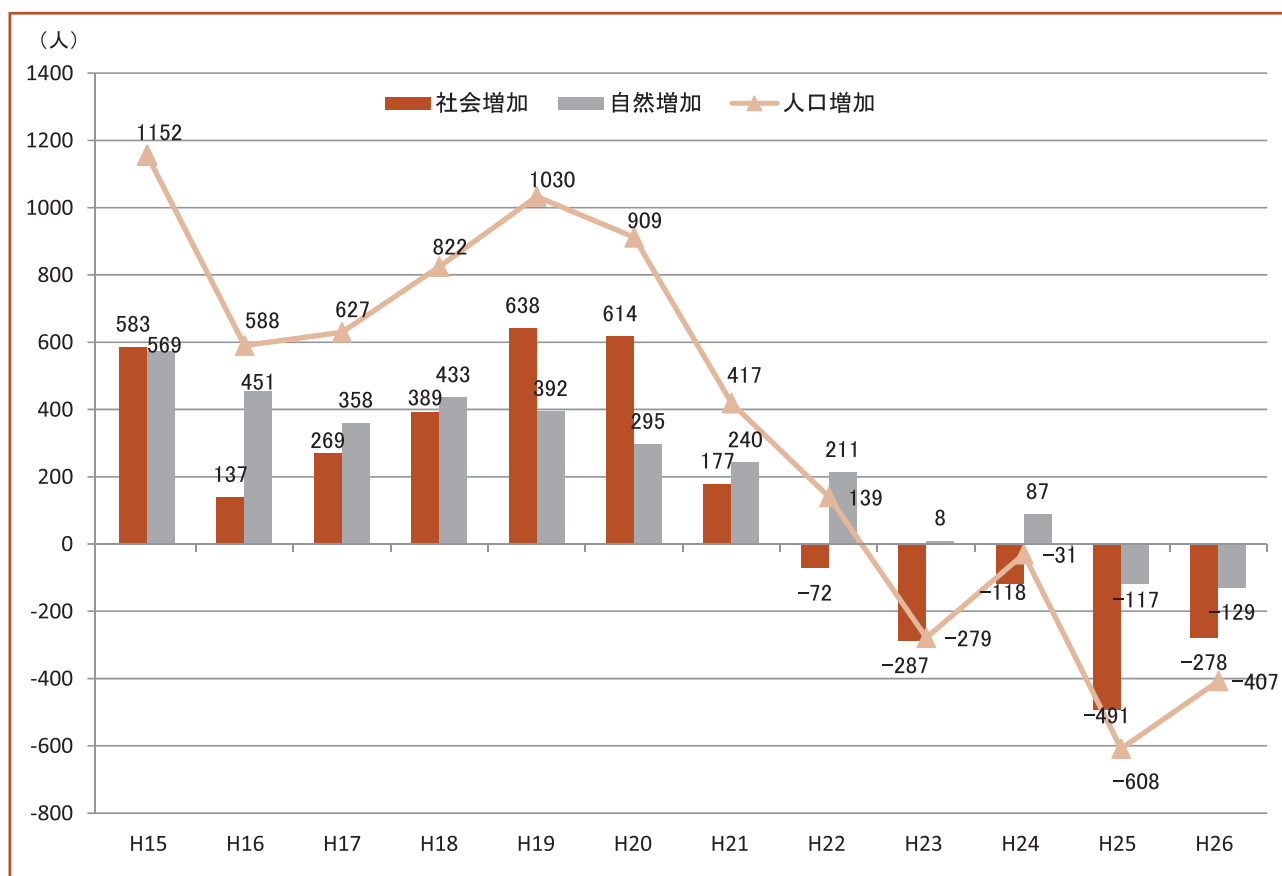
(1) 人口動態からみた泉区の状況

平成20年以降、人口増加が鈍化し、平成23年からゆるやかに人口が減少し始めました。この背景には、平成22年から社会増加数がマイナスに転じてきたことがあります。また、平成25年には自然増加数・社会増加数がともにマイナスとなりました。

今後も、泉区の人口はゆるやかに減少し続けると推計されています。

※自然増加数＝出生数－死亡数 社会増加数＝転入数－転出数＋その他増減

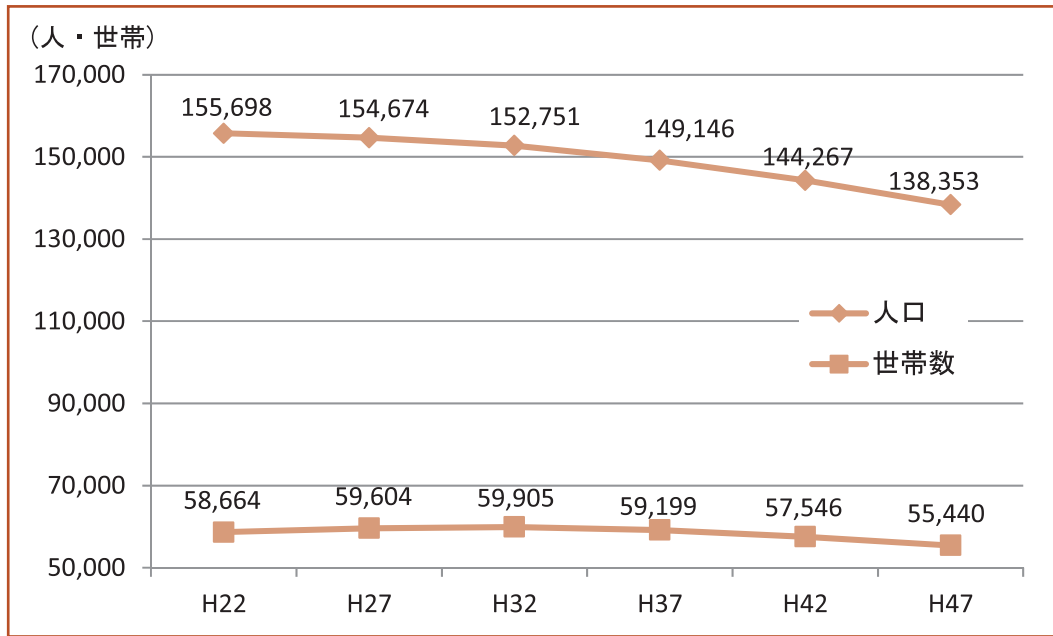
人口増加・自然増加・社会増加の推移



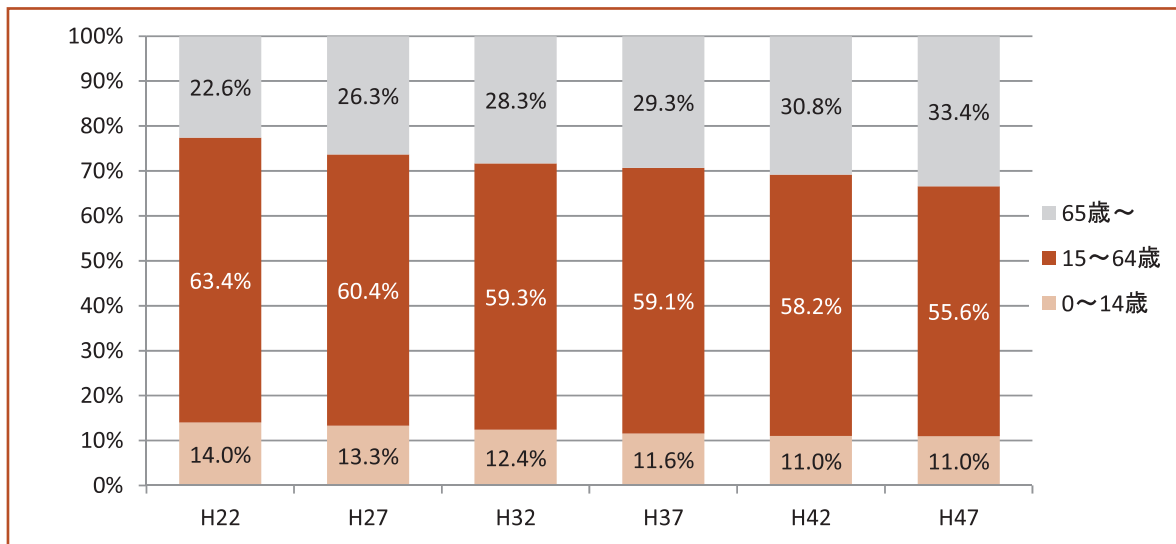
一方、世帯数は増加しており、今後も平成32年頃まではゆるやかに増加すると推計されています。若い世代が家族から独立し、規模の小さい世帯が増加することから、全体的な世帯規模は小さくなると予測されています。

また、高齢化率は徐々に高まっていることから、高齢単身世帯、高齢者のみの世帯が増加傾向にあります。

人口・世帯数の見通し（横浜市将来人口推計より：H27以降は推計）



人口の推移 年齢3区分の割合（横浜市将来人口推計より：H27以降は推計）



これらのデータから、今後、泉区では高齢者のみの少数世帯が増え、家族だけでは解決できない生活上の困りごとが増えてくることが考えられます。区民それぞれの生活課題を解決するためには、地域が一体となって支え合うことが、これまで以上に必要になると言えます。

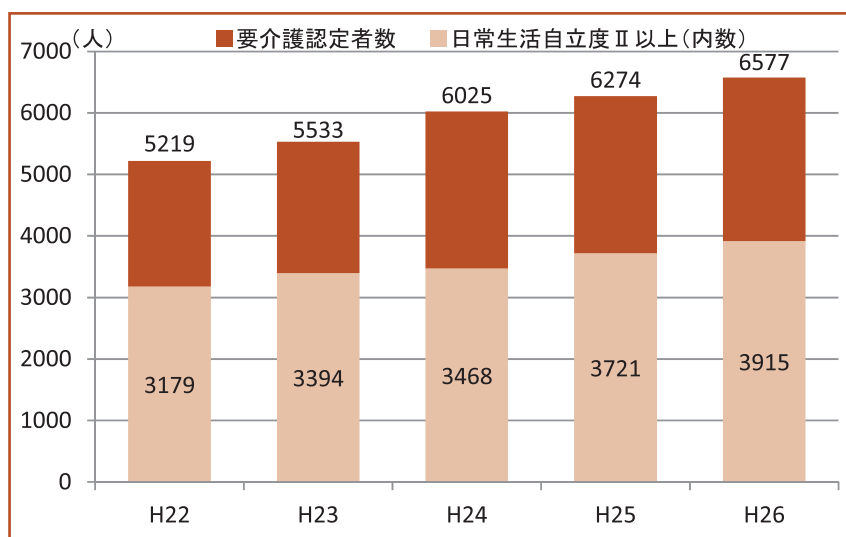
(2) 分野別にみる泉区の状況

高齢化の進展に伴い、介護保険の要介護認定者数が伸び続けています。さらに、要介護認定者のうち、認知症等により日常生活に支障をきたすような症状・行動があるとみなされる人（※）の割合は半数を超えています。

今後も介護を必要とする高齢者が増えていくことが予測されます。

※要介護認定において、「認知症高齢者の日常生活自立度」という基準を参考に判定される。自立・Ⅰ～Ⅳ・Mのランクに分かれており、Ⅱ以上であれば日常生活に支障をきたすような症状・行動があるとみなされる。

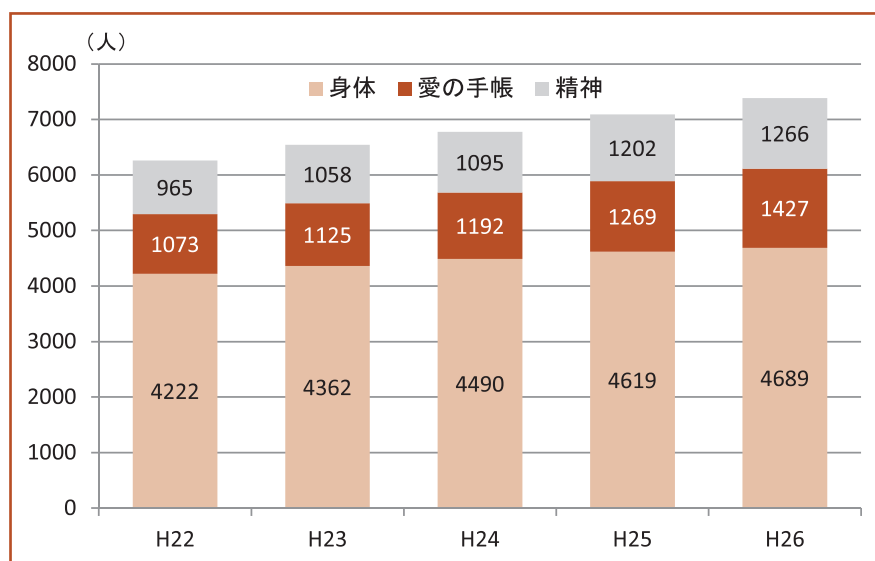
要介護認定者数・日常生活自立度Ⅱ以上数の推移（各年度末）



各種障害者手帳の保持者数は、前年度比3%～4%の割合で伸び続けています。これは、人口の増加率を大きく上回っています。

今後も、地域で暮らす障害がある人の割合が増えることが予測されます。

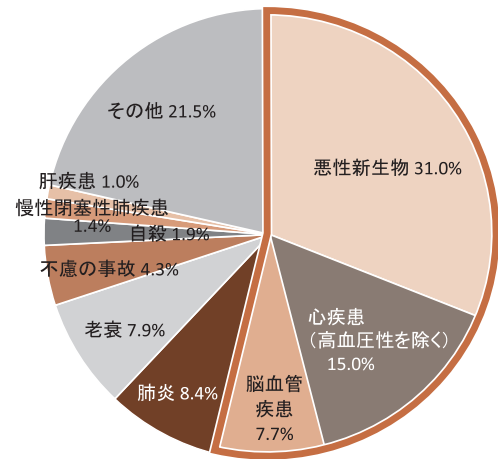
各種障害者手帳保持者数の推移（各年度末）



主な死因別死亡数の割合（平成26年分）
（横浜市人口動態統計資料より）

死因別の死亡数をみると、悪性新生物（がん）・心疾患・脳血管疾患といった、生活習慣に起因する疾病が死因となっている割合が半数を超えています。

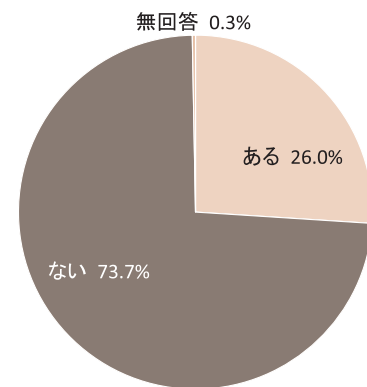
生活習慣病予防を進めることが、健康寿命の延伸につながると考えられます。



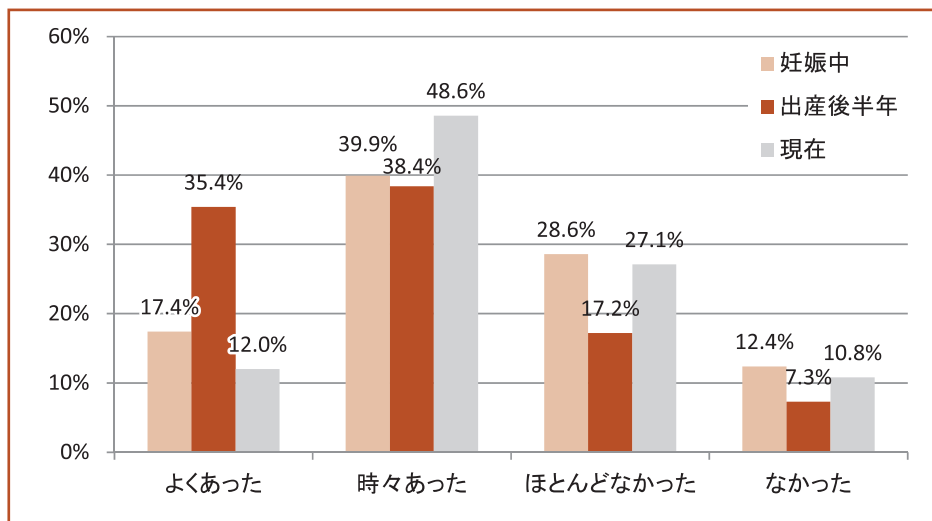
初めての子育ての前に、
赤ちゃんの世話をしたことがあるか

子育てについて不安を感じたり、自信が持てなくなったことがある人が多いというデータがあります。これは、初めての子育ての前に赤ちゃんの世話をしたことがない人が多いということも影響していると考えられます。

核家族化が進む中、地域全体で子どもや子育て世代を見守ることが健全な子育てにつながると考えられます。



妊娠中から現在までの間で、子育てについて、不安を感じたり
自信が持てなくなったことがあるか（未就学児世帯）



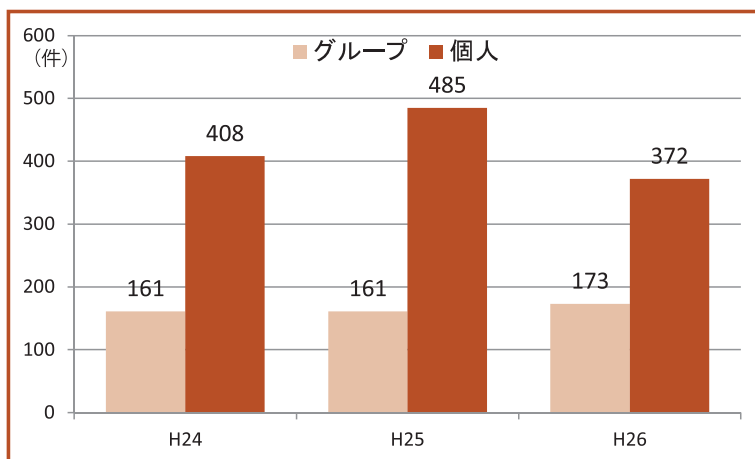
（子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査（平成25年実施）結果より）

(3) 泉区ボランティアセンターの利用状況

泉区ボランティアセンターは、泉区社会福祉協議会が運営しており、日頃の生活の中で困っていることに手助けが必要な時や、社会福祉施設などの行事でボランティアが必要になった時などに、相談を受け、ボランティアを紹介する役割を担っています。

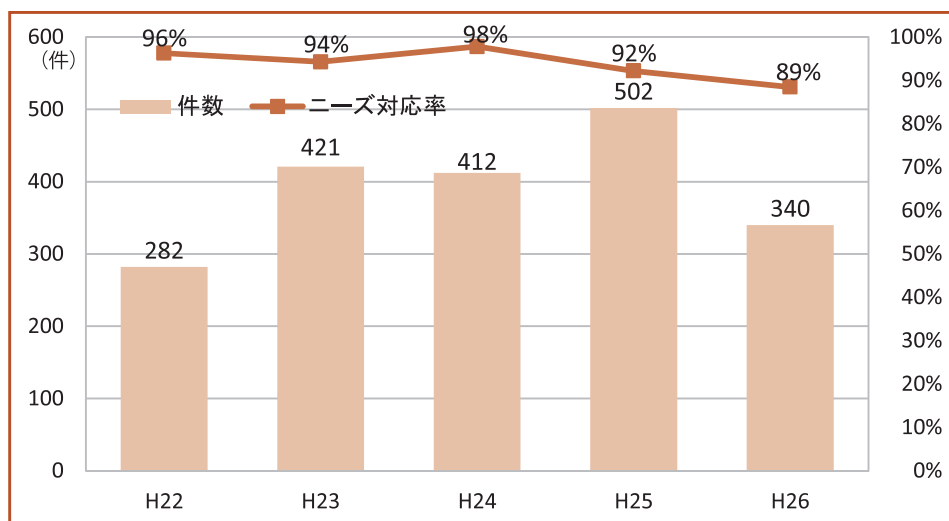
ボランティア登録グループ・個人数の推移

個人ボランティアの登録数は、着実に増加しているとは言えません。紹介するボランティアが固定化しており、今後、できるだけ多くの人や活動団体に登録していただき、その中から広く協力していただくように事業を進めていく必要があります。



ボランティアセンターへの依頼件数に対するボランティア紹介数の割合（ニーズ対応率）は、おおむね90%前後で推移しています。しかし、区のボランティアセンターとして支援が必要な方々へボランティアを紹介する現在の方法には、いろいろな課題を抱えています。また、ボランティアを必要としている方が依頼してもすぐに紹介ができない場合や、依頼者がボランティアに遠慮してしまうなど、様々なニーズに対応するには現実的には難しい面があり、地域との連携を進めることや、地域が主体的にボランティアを紹介できるような仕組みが必要です。

依頼件数・ニーズ対応率の推移



※H26から、依頼件数の集計方法を変更

(4) 区民意識調査の結果

平成26年8月に、泉区全域を対象に区政に対する考えや意見（生活意識、買い物行動、地域活動、福祉施策、広報・広聴等）についての区民意識調査を実施しました（対象3,000人、回収数1,588通）。地域福祉に関連する内容のうち、主な結果を紹介します。

○生活上、心配ごとや困っていることとして多いものが、「自分の病気や老後のこと」「家族の健康や生活上の問題」です。また、すでに健康づくりに取り組んでいる人が多いことや、現在取り組んでいない人でも情報提供があれば取り組みたいと考えている人が多いことから、区民の自分や家族の健康に関する意識は非常に高いと考えられます。

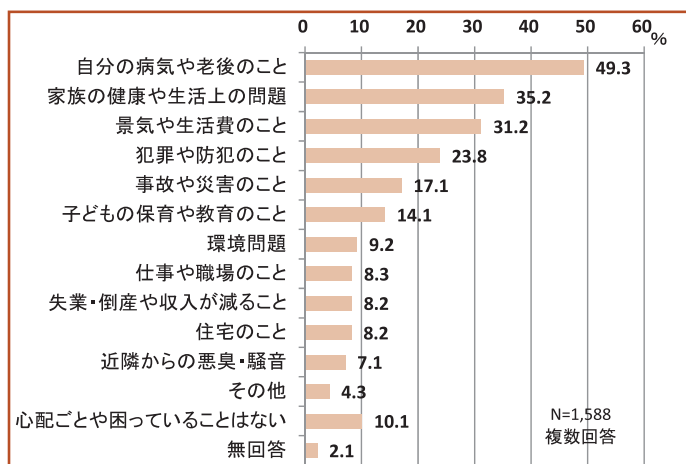
○地域で安心して暮らしていくためには、隣近所のような身近な関係の中で助け合うことが大事であるという声が多くありました。公的なサービスによる支援だけでなく、多くの人々が地域の中での声をかけるなどのつながりづくりが大事であるととらえていることが明らかになりました。

○地域活動やボランティア活動には、自治会・町内会の活動をはじめとして、多くの人々が参加していますが、参加している人の割合は全体から見ると小さく、地域ではより多くの担い手を求めています。「参加するきっかけがない」という人も多く、初めての人々が参加しやすくするための工夫や、活動内容についての情報提供をより積極的に行う必要があることがわかりました。

（以下、平成26年度泉区区民意識調査 調査結果報告書（概要版）より抜粋）

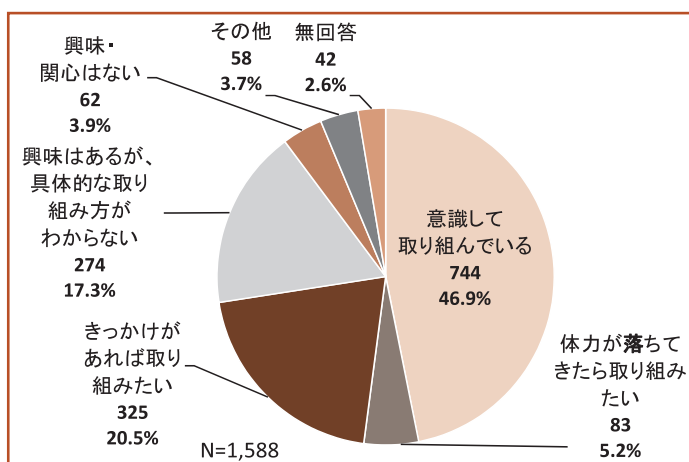
【心配ごとや困っていること】

「自分の病気や老後のこと」が最も多く、半数近い人が挙げています。次いで「家族の健康や生活上の問題」、「景気や生活費のこと」が3割以上です。



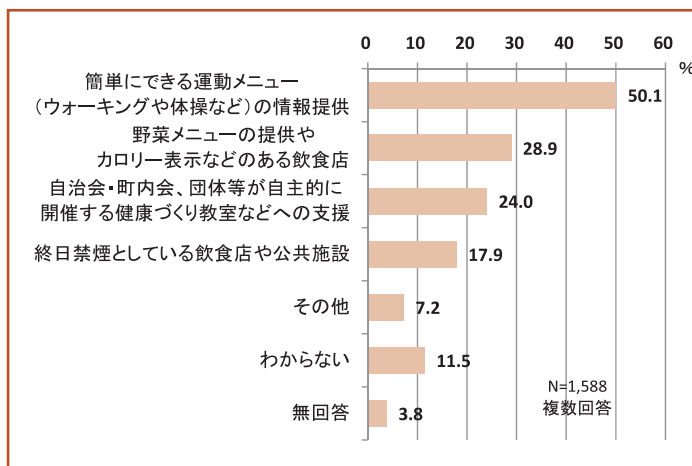
【現在、健康づくりに取り組んでいるか】

「意識して取り組んでいる」が最も多く、半数近くに達しています。「興味・関心はない」は少数にとどまっています。

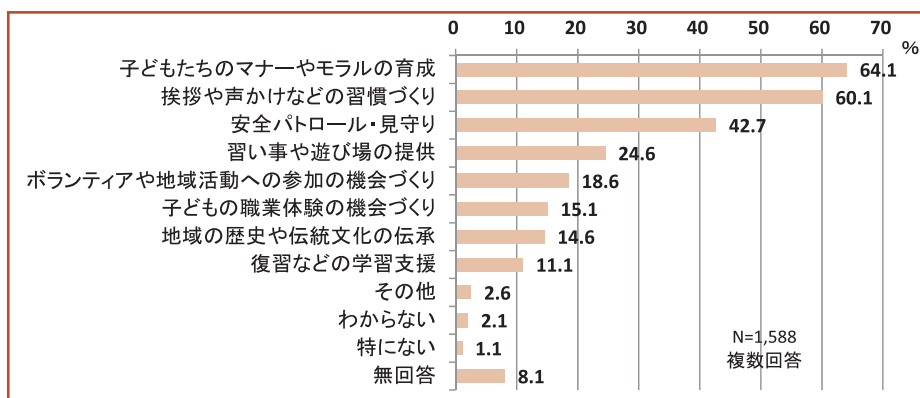


【健康づくりを進めるうえで、整備されているとよい環境】

「簡単にできる運動メニュー（ウォーキングや体操など）の情報提供」が最も多く、約半数の人が挙げています。

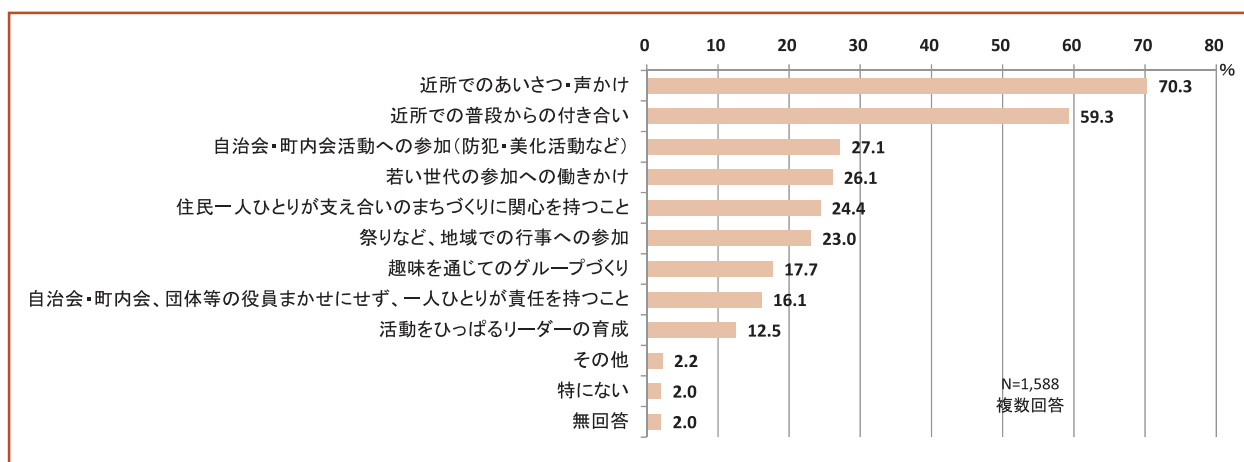


【子どもたちが健やかに成長するために地域が担う役割】



「子どもたちのマナーやモラルの育成」、「挨拶や声かけなどの習慣づくり」を6割以上の人が挙げています。

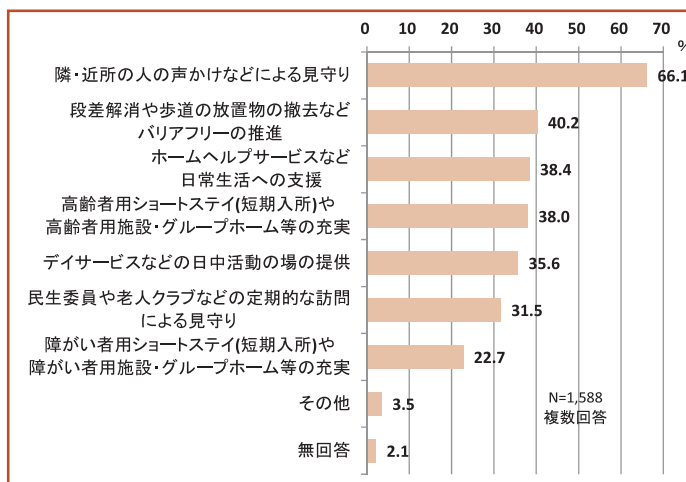
【地域で「身近な支え合いの関係」を築いていくために必要なこと】



「近所でのあいさつ・声かけ」が最も多く、7割の人が挙げています。次いで「近所での普段からの付き合い」で、近所での人間関係づくりに関する項目が上位2項目となっています。

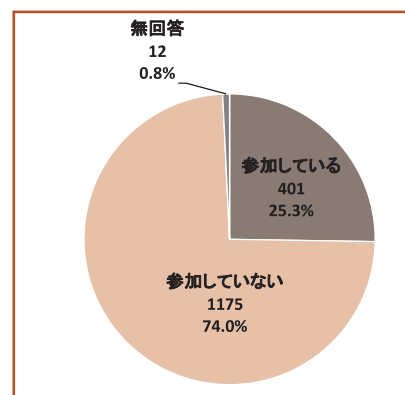
【地域で安心して暮らしていくために、力を入れるべきこと】

「隣・近所の人声かけなどによる見守り」が最も多く、7割近くが挙げています。次いで「段差解消や歩道の放置物の撤去などバリアフリーの推進」を4割が挙げています。

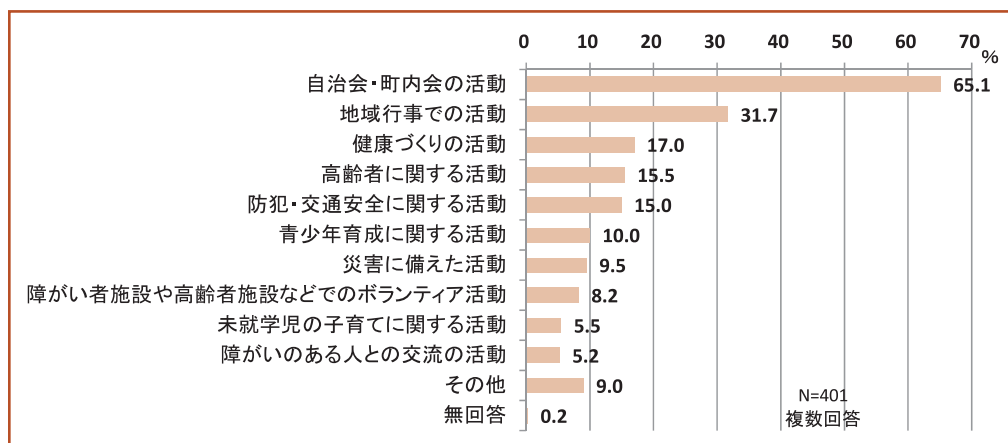


【地域活動・ボランティア活動への参加】

「参加していない」が全体の4分の3近くを占め、「参加している」は4分の1程度にとどまっています。



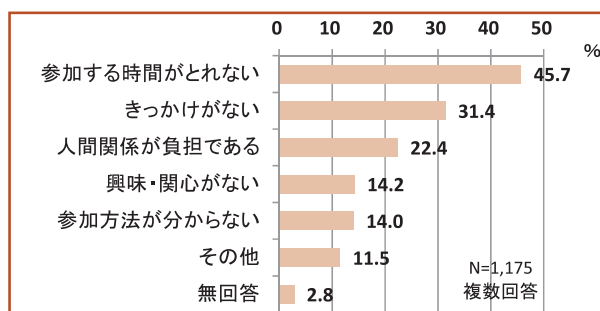
【参加している活動】



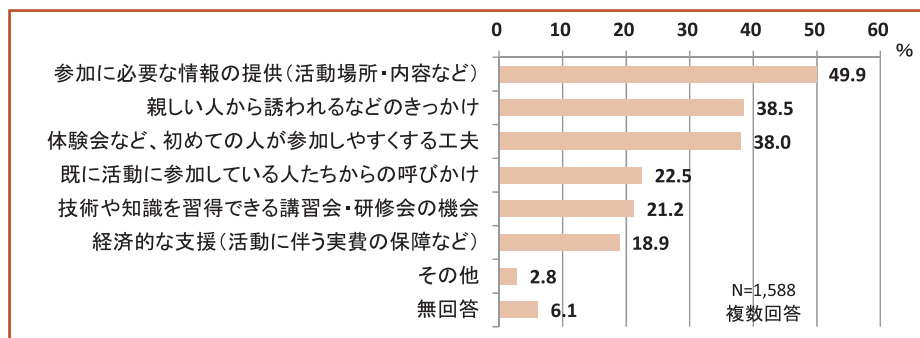
「自治会・町内会の活動」が突出して多くなっています。次いで「地域行事での活動」を3割強が挙げています。

【参加していない理由】

「参加する時間がとれない」が最も多く、半数近くの人が挙げています。



【多くの人が地域活動に参加できるようになるために有効な働きかけ】



「参加に必要な情報の提供（活動場所・内容など）」が最も多く、ほぼ半数の人が挙げています。次いで「親しい人から誘われるなどのきっかけ」、「体験会など、初めての人が参加しやすくする工夫」が4割弱でほぼ並んでいます。

4 基本理念を具体化するまちのイメージ

第2期計画からは、「支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」を基本理念とし、基本理念に基づいた様々な取組を進めてきました。

しかし、「元気の出るまち泉」という言葉の定義を明確にしていなかったため、様々なとらえ方が生じ、それぞれが考える「元気の出るまち泉」のイメージが異なっていたことが、振り返りを行う中で明らかになりました。

第3期計画の策定にあたって実施した、各地区での意見交換会や策定委員会での意見から、おおまかに以下の8つのイメージが明らかになりました。

基本理念

支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉



- 1 子どもが元気に友達と遊んでいる姿
- 2 地域全体で楽しく子育てをしている姿
- 3 地域に暮らす誰もが、生きがいをもっている姿
- 4 自ら主体的に健康づくりに取り組んでいる姿
- 5 必要な時には周りの助けを得て、誰もが安心して暮らしている姿
- 6 日頃のご近所付き合いが防災や防犯にもつながっている姿
- 7 困った時に「お互いさま」の気持ちで助け合える姿
- 8 孤立しがちな人もまわりとつながる姿

5 第3期計画の「推進の柱」

第2期計画では、基本理念に基づき、地区別計画と区計画をそれぞれ推進してきました。しかし、振り返りでは、地区別計画と区計画のつながりが見えにくかったという課題が明らかになりました。

また、区計画では土台となる「交流」「担い手」「情報」の取組と、「高齢」「障がい」「子ども・子育て」などの分野別の取組の2層としていましたが、それぞれの取組に重なりが多いことや、地域における多様な課題に対して、分野別に取り組んでいくことが、課題解決に効果的につながったわけではありませんでした。

そこで、第3期計画では、基本理念や、8つのまちのイメージの実現を目指して、第3期の5年間で推進することを3つの「推進の柱」としてまとめました。推進の柱は、地区別計画・区計画に共通するものです。泉区全体として、第3期計画での方向性を明らかにしながら、地域の課題を横断的にとらえて取組を進めます。

推進の柱1 健やかに過ごせるまち

- ・健康に関する関心が高く、気軽に取り組みたい人が多い
- ・地域で安心して暮らすためには、そのための環境づくりも重要

推進の柱2 人と人、活動と活動のつながりがあるまち

- ・地域での支え合いには、身近な関係の中で支え合うことが大事
- ・活動どうしがつながり、多様な課題の解決に取り組むことが重要

推進の柱3 地域活動への参加がすすむまち

- ・地域では多くの担い手を求めているが、参加していない人が多い
- ・情報提供や活動の工夫で、活動に関心を持てる環境づくりが重要

第2章 地区別計画

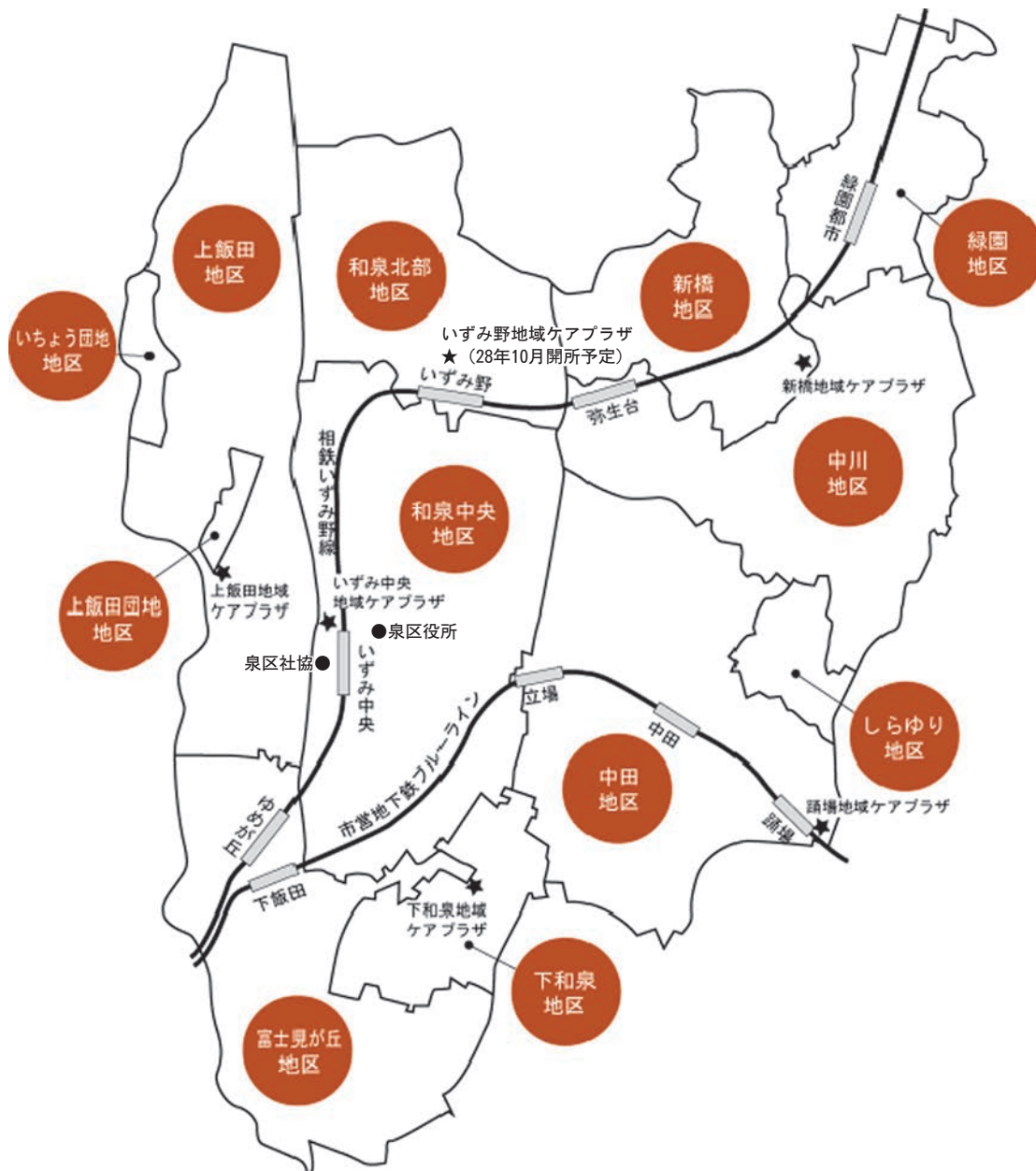
1 地区別計画の位置づけと役割

地区別計画は、より身近な地域の課題に対して、きめ細かく対応するための、地域住民の皆様や活動団体による支え合いの取組を示すものです。それぞれの地域で、福祉保健活動に関わる方々を中心に、地域住民自ら策定した計画です。

泉区では、第1期計画から、連合自治会・町内会のエリアを基にした12の地区ごとに、地区別計画を策定・推進しています。

第3期計画では、計画全体に共通する3つの「推進の柱」に沿って地区別計画を策定しました。

泉区内の12地区



第1期計画から、地域のみなさんが主体となって、様々な取組が行われてきました。その結果、世代間交流や活動団体間のネットワークづくり、高齢者サロンや健康づくり活動の増加など、たくさんの成果につながっています。

第1期計画、第2期計画の成果を踏まえて、さらに充実したものにしていくために、第3期計画においても、地区の特性に合わせた、個性豊かな取組を推進していきます。推進にはみなさんの力が必要です。お住まいの地区の計画を見て、ぜひ取組に参加してください。

地区別計画のキャッチコピー

地区名	キャッチコピー
中川地区	ご近所で助け合えるまちを目指して
緑園地区	人・和のあるまち緑園
新橋地区	ぬくもりのある町しんばし
和泉北部地区	健やかで明るい、ふれあいのあるまち
和泉中央地区	誰もが楽しく安心して暮らせるまち
下和泉地区	手をつなぎ広めよう 支え合いの輪 笑顔で健康なまち
富士見が丘地区	ご近所どうしで助け合い 安全・安心・快適なまちづくり
上飯田地区	みんな仲間のまち 上飯田
上飯田団地地区	支え合い、安心して暮らし続けることができる上飯田暖地
いちょう団地地区	こんにちは <small>ニーハオ</small> 你好 <small>シン チャオ</small> Xin chào みんな笑顔で支えあうまち
中田地区	みんなで支えあい ふるさと中田
しらゆり地区	明るい笑顔のあるまち しらゆり

第3期中川地区地域福祉保健計画(平成28年度～32年度)

中川地区

【基本理念】 **ご近所で助け合えるまちを目指して**

みんながお互いに支えあい助け合うことができるまち

障害者、高齢者子どもなどみんなが安心して暮らせるまち

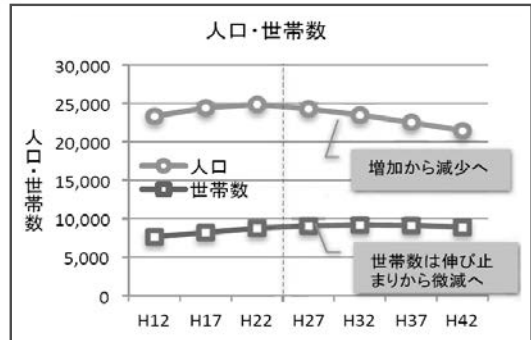
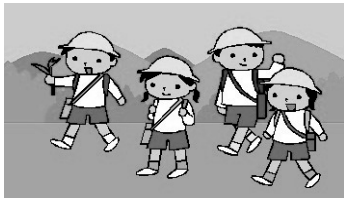
みんなが健やかに生きがいを持てるまち

【中川地区の目指すまちの姿】



中川地区は中川連合町内会を構成する19の自治会・町内会がある地域です【下図参照】

(あおば自治会、岡津新町町内会、岡津西部町内会、岡津第一～第四町内会、グリーンハイム弥生台ABC自治会、弥生台自治会、西が岡第一～第三自治会、ルネ戸塚弥生台自治会、領家自治会、桂坂自治会、みやこの杜自治会、グレースシア山手台自治会)



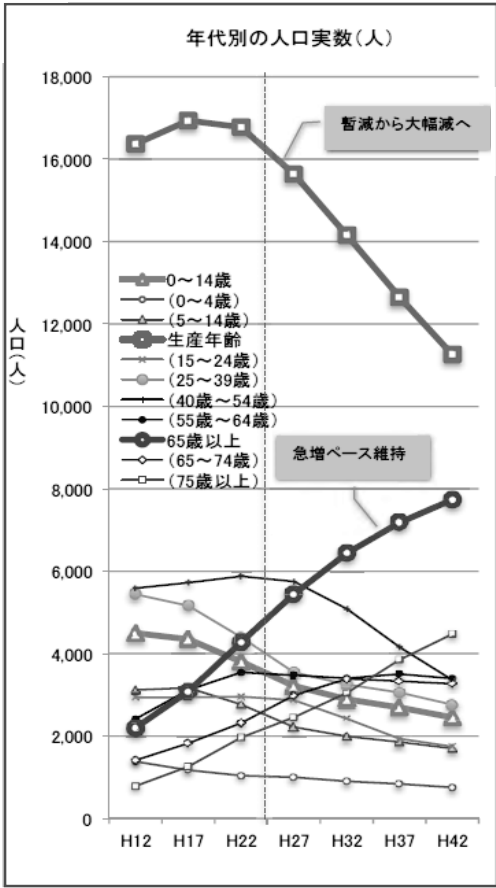
中川地区の人口・世帯数【右上グラフ参照】は、これまで増加傾向でしたが、今後は減少する見込です。特に、これまでの人口の増加の要因であった30歳代とその子どもの転入の増加傾向が弱まることが予想されます。

年代別の人口【右側グラフ参照】では、

- ・ 生産年齢人口（15歳～64歳）は、平成22年以降、減少するスピードがさらに増す見込です。
- ・ 高齢者人口（65歳以上）は、平成32年以降増加のスピードが若干緩くなる見込みですが、全体としては、依然として高いまま推移する見込となっています。

【第2期計画で取り組んだこと】

- 障害者、高齢者、子どもなど、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、永明寺別院サロン、岡津サロン、いきいきあすなろ、さくら会、ひまわりクラブ、タンタン、高齢者サロン「なのはな会」「なごみの広場」など、様々なサロン活動を実施しました。
- 様々な世代の人がお互いに支えあうことのできるまちを目指して、ボランティア交流会、ボランティア講演会を行い、地域にどんなボランティア活動があったらいいのかについて地域の方々との話し合いを行い、ライフサポート事業に取り組みました。
- いつまでも若々しく生きることができるまちを目指して、健康体操教室（岡津教室、弥生台教室）、わが街散策ツアーを実施しました。
- その他、けいあいの郷緑園及び恒春ノ郷と、特別災害時避難協定を締結しました。



【第3期計画で取り組むこと】

【具体的項目】

- 支援の輪をひろげる
- みんなの健康づくり
- 居場所づくり
- 担い手を増やす

- 高年齢者サロン活動の継続・支援
- 子育てサロンの継続 サークルの支援
- 健康体操教室の継続
- わが街散策ツアーの継続
- ボランティア講演会の継続
- ライフサポート事業の充実
- ボランティア交流会の継続
- ★里山体験プロジェクト ～みんなで みんなのふるさとを！～【新規】
- ★子どもと学ぶ地域の福祉【新規】



【策定】 中川地区社会福祉協議会、中川地区連合町内会
 【協力】 中川地区地域支援チーム
 新橋地域ケアプラザ813-3877／泉区社会福祉協議会802-2150／泉区役所福祉保健センター800-2433

人・和のあるまち緑園

《 緑園地区が目指すまちの姿 》

緑豊かな心あふれるまち！ 福祉活動の充実で安心して暮らせるまち！

◆健やかに過ごせるまち

各自治会、民生委員、社協が協働して居場所づくり・高齢者支援・健康づくり等の諸問題に取り組む



◆人と人、活動と活動のつながりのあるまち

子育て・孤立防止対策として、子育てグループ・シニア連合を含めイベント等を開催する

◆地域活動へ参加が進むまち

インターネットのホームページや広報紙を有効に活用し、参加のきっかけを作り担い手を集める



＜緑園地区の現状＞

- 1) 開発以降28年が経過し、まちの再生と活性化が望まれている
- 2) 少子高齢化(長寿化)が進み、日常の生活面で助け合いが必要な方が増えている
- 3) 小中一貫校の設置や緑園周回バスの運行、防犯カメラの設置等が実現に向かっている
- 4) 元気な高齢者は、地域の活動に参加を希望する声が多い
- 5) 乳幼児から青少年まで、こどもの見守りの輪が広がりつつある

《 目標と具体的な取り組み 》

《 目標 》

多くの住民が文化活動や健康づくりの地域活動に参画し、ふれあい、知り合っ、お互いを見守り・支え合い・助け合いができるまちを目指す＝そのために緑園地区社協は福祉活動の中心となり、連合自治会・各種団体・行政・区社協・地域ケアプラザと協働して取り組む

《 具体的な取り組み 》

＜こどもと高齢者＞

- ・子育ての連携
キッズフェスティバルの開催
- ・こども見守り活動支援
キッズクラブ、その他
- ・居場所の充実
町内別居場所づくり
緑園サロン・大人の居場所
子育てサロン等継続支援
- ・シニアクラブの活性化
活動の充実と加入率UP

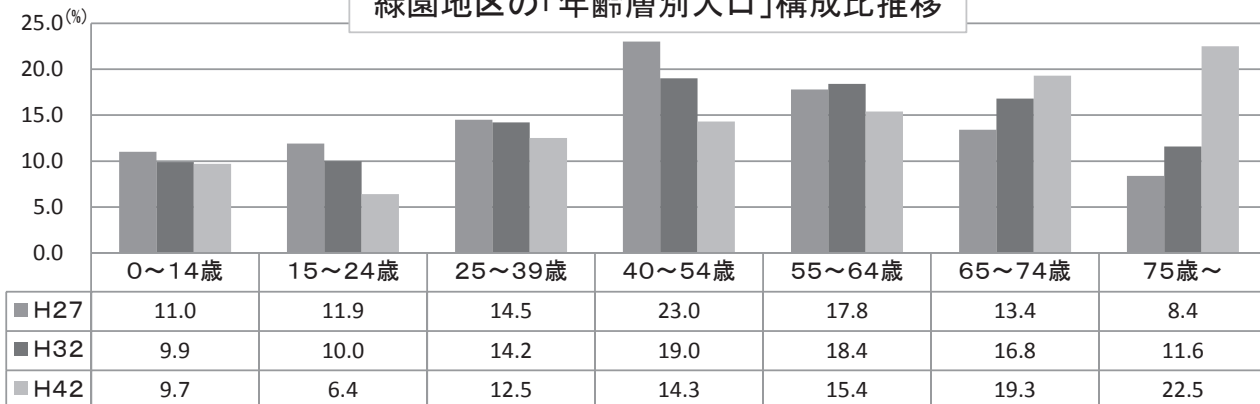
＜健康づくりと予防＞

- ・食事会の開催
年間2回開催の実施
- ・健康体操の充実
月間2回開催の継続
- ・ウォーキングの会発足
毎月1回町内散歩開催
- ・ラジオ体操・ふまねっと運動
などの軽スポーツの普及
自治会施設を活用し
居場所です実施

＜支え合い・助け合い＞

- ・災害時要援護者支援
自治会と協働で支援
- ・地区社協の拠点づくり
常設の拠点設置
- ・認知症サポーター育成
講習会の開催と支援
- ・障がい者支援活動
困っている人の手助け
- ・広報活動の継続
広報紙とホームページ

緑園地区の「年齢層別人口」構成比推移



緑園地区における人口は、平成27年3月末現在で14,413人となっている。
 また、65歳以上の人口構成は5年前の平成22年には14.7%であったが、平成27年3月末には21.2%と高齢化が進み超高齢地域となっている。一方、19歳以下の若年層は17.1%に減少している。
 泉区役所の人口推移想定によると、高齢単身世帯・夫婦のみ世帯が増加し世帯規模は縮小、子育て層と子どもが転出傾向にあるとしている。また、高齢者層は平成32年には28.4%、平成42年には41.8%と想定している。
 これらのデータを見れば急速な高齢化(長寿化)対策は待たなしであり、地域福祉の取り組みはさらに重要性が増している。
 (資料：平成27年3月泉区役所「緑園地区の人口・年齢構成」による)

◆第2期計画(平成22年度～27年度)の振り返り

第2期福祉保健計画では、「人・和のあるまち緑園」をスローガンに活発な活動を展開し、各種団体と協働で大きな成果を上げることができた。但し、個別の活動は活発に行われたが、人や活動のつながりが第3期に向けた課題となった。

- 地域における交流は、「ふれあい祭り」「ふれあいフェスティバル」を中心として多くの住民が参加し地域に根付いている。
- 「子育て」や「高齢者の居場所」活動は多く行われたが、団体間の連携と近場での開催要望があり今後の課題となった。
- 健康づくりは、関係部門の協力で「健康体操」「健康チェック」に多くの住民が参加した。拡大要望も多くさらに充実したい。
- 障がい者支援への取り組みも施設訪問を継続的にを行い、保育園児の協力で慰問をより楽しいものにすることができた。

《 第2期計画での活動事例 》

【地域交流の拡充・各種団体との協働】

- 福祉ふれあいフェスティバル(6月)
- 共同募金協力(10月) ○福祉ふれあい祭り(10月)
- 福祉保健研修会(随時) ○関係団体交流会(随時)



【こども・高齢者の居場所づくり】

- 親と子の居場所
「ぐりん」、「子育てサロン」、
「ピッコロひろば」、…
- 高齢者の居場所
「南・北緑友会」、「東花会」、
「ふらっと(民児協)」、
「緑園サロン」、…
- 居場所の充実



【健康づくり】

- 健康体操教室、ヨガ体験教室 (RSC)
- スポーツフェスティバル (RSC・協力)
- 健康チェック (福祉ふれあいまつり)
- 関係部門との協働 (RSC/ケアプラザ等)



【「障がい」の理解と施設訪問】

- 施設訪問: 希望苑、新橋ホーム、名瀬の里
- 行事協力: ひかりの園・夏祭り
- 施設訪問情報収集等



<策定>

<事務局：緑園地区地域支援チーム>

緑園地区社会福祉協議会

泉区役所福祉保健センター 電話：800-2433

泉区社会福祉協議会 電話：802-2150

新橋地域ケアプラザ 電話：813-3877

基本理念

ぬくもりのある町しんばし

新橋地区がめざす町

子どもから
お年寄りまで
あいさつを
交わせる町
新橋町



- ① 人と人のつながりの場を通して、世代間交流を深めていこう
- ② イベントに参加して、よりよい出会いを作っていこう
- ③ 声を掛け合って地域の輪を広げていこう
- ④ 元気に歳を重ね、いつまでも安心して暮らし続けられる町にしよう
- ⑤ 参加する人をふやし、地域の活動を未来につなげよう
- ⑥ 地域の情報交換を活発にして、理解を深めよう

目標・具体的な取り組み

第1期計画(平成17年度～21年度)

目標	第2期計画で実施したこと (平成22年度～27年度)	第3期計画で実施すること (平成28年度～32年度)
地域の活動を一緒に行なう仲間をふやします。	地域デビュー講座「新橋自然観察クラブ」「刃物研ぎ」「ふれあいサロン寺子屋パソコン」などを開催し、新しい仲間が集える場をふやしました。	第2期の活動を継続し、地域の自然にふれあう活動、趣味を生かした活動、男性が参加しやすい活動など、地域の親交に役に立つ企画を開催します。
子育て世代から高齢世代まで、多世代が交流できる場を作ります。	「世代ふれあいサロンしんばし」「気軽にサロン」「カレーの日」を開催し、世代交流が深まりました。	サロン活動を継続し、より多くの方が参加しやすいように内容の充実を図ります。
地域の情報を発信し、たくさんの方が参加できるようにします。	「新橋だより」の発行や、新橋連合自治会・泉区社協ホームページへの情報の掲載により、地域の活動を紹介しました。 また「つどいばマップ」を更新し、誰もが安心して集える居場所を地図でわかりやすく紹介しました。	「新橋だより」の発行やホームページでの情報発信を継続するとともに、「つどいばマップ」の最新情報を提供します。 地域情報が、誰でも見やすく手取りやすくなるよう工夫します。



【策定】新橋地区社会福祉協議会

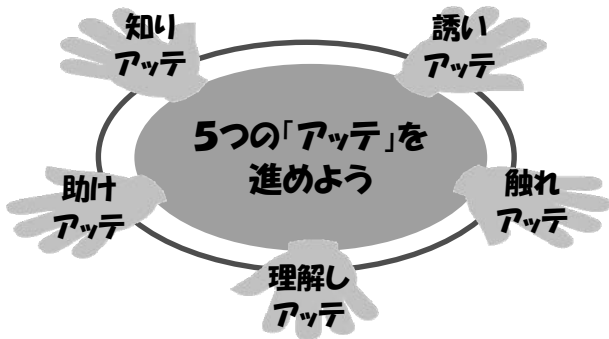
【事務局】泉区役所福祉保健センター Tel:(800)2433

泉区社会福祉協議会 Tel:(802)2150 新橋地域ケアプラザ Tel:(813)3877

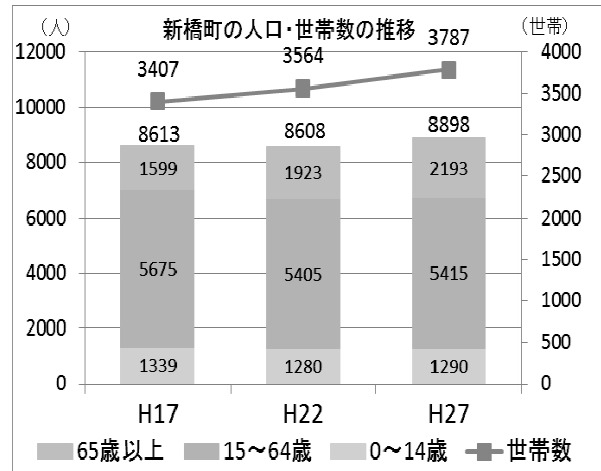
アッテ祭りのいわれ

泉区の地域ふれあい祭りの先駆けとして、平成6年から「新橋アッテ祭り」を始めました。

祭りの名前の由来は、5つの「アッテ」がテーマとなっているためです。



数字で見る新橋町



地域活動の紹介

『誰もが、地域の活動に参加できる』



★世代ふれあいサロンしんばし★

第1金曜日 10時から

乳幼児の親子から、お年寄りまでみんなで参加してふれあいの輪を作りましょう。

★気軽にサロン★

第3水曜日 10時から

乳幼児の親子さん、気軽にいらっしゃ〜い!! お待ちしています。

★ふれあいサロン寺子屋パソコン★



第3週を除く毎週水曜日 9時30分から
パソコン初心者の方大歓迎!
インターネットも体験できます!



★カレーの日(カレーを食べる会)★ 第3水曜日 12時から

1人暮らし、高齢者、乳幼児と保護者の方、カレーを食べながら仲良くなりましょう! 1食100円で新橋の地場野菜たっぷりのカレーを召し上がれ。

★刃物研ぎ★ 第3水曜日 10時から

切れが悪くなった刃物を研ぎます。待ち時間はおしゃべりタイム♪
刃物研ぎのコツも教えます!

以上の会場はすべて 新橋連合自治会館 です

★新橋自然観察クラブ★

(原則) 第1日曜日 9時から

新橋の自然の魅力を探索しています。また、阿久和川や「新橋市民の森」の掃除など新橋の自然を守る活動を積極的に行っています。



★新橋炭焼きの会★

不定期開催

地元の竹を使って、手作りの炭焼窯で竹炭を作り、地域の行事などで配っています。



健やかで明るい、 ふれあいのあるまち

私たちの地区では、平成28年度～32年度にかけて
(第3期計画)として、こんなことに取り組みます！

私たちの住む和泉北部地区がめざすまちの姿(5年後の姿)



健康

- ・地域みんなで健康づくりに取り組むまち
- ・お互いの健康を気遣うことができるまち
- ・健康に関する情報を発信するまち

交流

- ・自治会、子ども会、ボランティアなどの団体同士がつながり、交流のできるまち

参加

- ・地域活動に関心を持つきっかけづくりができ、新しい担い手が増えるまち

目標

地域ケアプラザを拠点として健康づくり活動を活発に展開しましょう

取組

- * シニアクラブやサロンなどでも健康づくり活動を展開しましょう
- * 自分だけでなく、身近な人の健康にも関心を持ちましょう
- * 介護体験など、健康に関わる情報を勉強会などで積極的に発信しましょう

目標

子どもから高齢者までさまざまな住民と活動団体の和を広げましょう

取組

- * 各団体はお互いの活動が理解できる情報をケアプラザを中心に発信しましょう
- * 子ども会同士のネットワークができる橋渡し役を活発化させましょう
- * 一人暮らしの方が、高齢者サロンなどに参加できるようにしましょう

目標

地域活動に関心をもてる情報を発信しましょう

取組

- * 運動会など地域のイベントに、積極的に参加しましょう
- * 地域みんなが参加できるように、関心のもてる情報をケアプラザやHPなどを使って発信しましょう

主な活動団体とは：自治会、町内会、子ども会育成指導者連絡協議会、子ども会、シニアクラブ、サロン、各ボランティア団体、保健活動推進員、スポーツ推進員、青少年指導員、地区社会福祉協議会、地区民生委員・児童委員協議会 など

この六年間、このまちでこんな 声をききました

健康づくりは、サロンや老人クラブでの健康体操のように、地域交流を兼ねて皆さんが参加できるといい。



地域の皆さんがいつでも集まれて情報が共有できる拠点みたいなのがあればいいな。活動団体同士の交流もできるし。

地域の行事には、新しい人にも参加して欲しい。

第2期計画(平成22年度～27年度)では このようなことに取り組みました



福祉バザー



認知症サポーター養成講座

- 「向こう三軒両隣のふれあいのあるまち」を基本理念に地域交流の活性化を図りました
- 健康講座など健康づくりのための活動を活発に展開しました
- 老人クラブやサロンなどによる地域の交流を行いました
- 大災害時を想定した仕組みづくりが展開されました

戸建を中心とした日向山地区

古い歴史を刻む三家地区

相鉄いずみ野線

いずみ野駅

戸建とマンションを中心とした駅周辺のいずみ野駅界隈

和泉北部地区ってこんなまち

- いずみ野駅周辺と日向山地区に広がる一戸建てやマンションの比較的新しいまちと和泉川沿いに広がる古くからのまちがあり、新旧の融合を感じるコミュニティです
- 年少人口が泉区平均より低いですが、生産年齢人口は高く、活気のあるまちです
- 新旧融合の示すとおり、夏祭りもいずみ野駅中心としたものと、地域に根ざしたものなどバラエティに富んだコミュニティです

敬老のつどい的一幕

お問い合わせは
 泉区役所福祉保健センター Tel 045(800)2433
 Fax 045(800)2516
 泉区社会福祉協議会 Tel 045(802)2150
 Fax 045(804)6042
 いずみ中央地域ケアプラザ Tel 045(805)1700
 Fax 045(805)1798
 ※平成28年10月以降は、いずみ野地域ケアプラザの開所に伴い、担当ケアプラザが変更になります。

和泉北部地域福祉保健計画推進委員会
 和泉北部連合自治会
 和泉北部地区社会福祉協議会

第3期和泉中央地区地域福祉保健計画(平成28年度～32年度)

誰もが楽しく安心して暮らせるまち

～元気になるまち、和泉中央を目指して～

目指すまちの姿

気軽に交流できる
機会・場があるまち

お互い助け合い
支え合うまち

みんなが健康で
楽しいまち

地域の担い手が
育つまち

基本理念

人と人のつながりを大切にし、支え合えるまちづくり



【和泉中央地区の現況】

高齢者のみの世帯、単身世帯が増えています。また、ひとり親世帯等、家庭のスタイルが大きく変わりつつあり、安心安全な生活が家庭の中だけでは確保できにくい状況が表れています。

今後は、**家庭を超えて地域で支え合うことが、真に必要な時代**となります。
私たちは、ご近所どうして支え合いを強めると同時に、地域社会の中で人と人のつながりを大切にした活動に真剣に取り組んでいく必要があります。

和泉中央地区の地域活動のあゆみ

第2期計画（H22～H27）策定時の 地域の特徴と課題

○高齢化が進むとともに高齢者所帯、一人暮らし所帯の増加

課題 居場所づくり、支え合い活動、見守りネットワーク、健康づくり

○いずみ中央駅周辺のマンションの増加に伴う若い世代が増え、子どもの数が増えている。

課題 子育て支援、青少年の健全育成、地域の教育力の活用

○地域連帯意識、ふるさと意識が希薄になりつつある

課題 世代間交流の推進、地域行事への参加、町内会活動の活性化

○都市化が進展している

課題 安心、安全、清潔な「まち」づくり
高齢者や障がい者が暮らしやすい「まち」づくり

地域活動の取組みと成果（第1期・2期をとおして）

居場所づくり 身近な居場所が増え、交流の場が広がりました

- ・「**いこいの家**」(H21～)：誰もが気軽に立寄れる交流の場。
- ・「**高齢者サロン**」(H16～)：11自治会・町内会で開催。
- ・「**十日会**」：30年の歴史をもつ一人暮らし高齢者向けの食事会。

支え合い、見守り 助け合い、新しい見守り活動が生まれています

- ・「**ふれあいヘルプ**」(H24～)：手助けが必要な高齢者への助け合い活動。
- ・「**新しい見守り活動**」(H26～)：地域の協力による、高齢者見守り活動。

健康づくり 身近で参加できる教室が増えています

- ・「**体操教室**」(H19～)：9自治会・町内会で開催。(中央地区4教室)

子育て支援、青少年の健全育成、地域の教育力 活動が広がっています

- ・「**子育てサロン**」(H18～)：子育て中のお母さん方の交流の場。
- ・「**和泉川クリーンアップ**」：大人と共同の清掃活動は、子どもが地域を見つめ直す機会となっている。

*青少年の健全育成、地域の教育力の活用は、連合自治会、各自治会・町内会、学校との連携で進められてきている。(子どもの居場所づくり、ハマロード等)

世代間交流の推進、地域行事への参加 交流の場が広がりました

- ・「**ふるさとまつり**」(H21～)：地区最大、多世代交流の場として定着。
 - ・「**さくらまつり**」(H24～)：小中学生の成長を祝って卒業生を招待。
- *各自治会・町内会で、交流のために、年間をとし多くの行事を実施。

安心・安全な、高齢者 障がい児・者も暮らしやすいまちづくり

- ・安心・安全なまち：連合自治会、各自治会・町内会活動(防犯パトロール等)
- ・障害者施設との交流：各自治会・町内会行事への参加。(お祭り、防災訓練等) 地区社協との定期交流、散歩の会 等。

和泉中央地区は、さまざまな分野で活発な活動を行っています。
今後、さらに「人と人のつながり」を大切にして、取組みを充実発展させていきます。

5年後の目指す姿	地域活動における主な取組み	私たちに出来ること（個人・家庭）
気軽に交流できる機会・場があるまち  <small>(いこいの家)</small>	目標：誰もが楽しく参加できる機会をつくります <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとまつり ・いこいの家 ・子育て支援（子育てサロン、公園遊び等） ・さくらまつり ・高齢者サロン ・十日会 ・障がい児・者との交流（散歩の会等） ・連合自治会、各自治会・町内会の事業（体育祭、夏祭り等） ・シニアクラブの活動 	目標：活動やイベントに参加しよう <ul style="list-style-type: none"> * 地域情報のキャッチ * 誘い合って参加 * こどもからお年寄りまで交流 * 出会いを大切に
お互い助け合い支え合うまち  <small>(ふれあいヘルプ)</small>	目標：身近な助け合い・見守り活動を推進します <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいヘルプ ・新しい見守り活動 ・連合自治会、各自治会・町内会の事業（交通安全運動、防犯パトロール、防災訓練等） <p>～ 障がい児・者、認知症の方への理解を深めよう ～</p>	目標：ご近所どうして支え合う <ul style="list-style-type: none"> * 近隣とのつながりを深める * チョットした気遣いが出来る関係づくり
みんなが健康で楽しいまち  <small>(健康体操教室)</small>	目標：心も身体もすこやかに過ごせる取組みを進めます <ul style="list-style-type: none"> ・健康体操教室 ・健康講座等の情報発信（ノルディックウォーキング等） ・連合自治会、各自治会・町内会の事業（親子ドッチボールなどスポーツ大会等） 	目標：健康意識を高めよう <ul style="list-style-type: none"> * 健康情報のキャッチ * 健康を意識する生活 * 交流の場へ積極的に参加
地域の担い手が育つまち  <small>(和泉川クリーンアップ)</small>	目標：地域への愛着が生まれる活動を推進します <ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり ・和泉川クリーンアップ ・連合自治会、各自治会・町内会の事業（青少年健全育成事業等） ・学校との連携 	目標：地域活動に小さい頃から触れさせよう <ul style="list-style-type: none"> * 行事への参加（祭り、体育祭等） * こども会への参加



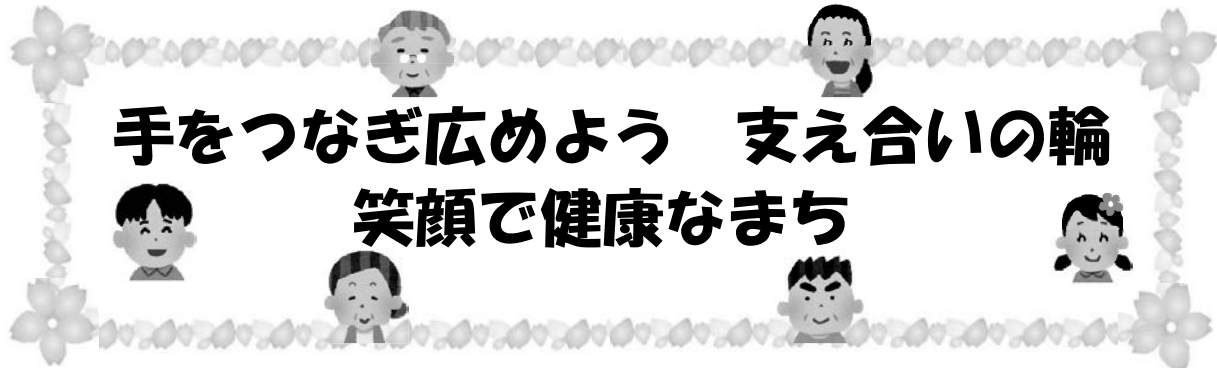
* 「立場地区センター」「中和田コミュニティハウス」は、私たちの交流の場として地域活動の一翼を担っています。



掲載した内容についてのお問合せ・ご意見・ご感想等がございましたら、下記までお寄せください。
 泉区社会福祉協議会 Tel. 802-2150 / いずみ中央地域ケアプラザ Tel. 805-1700 / 泉区役所福祉保健センター Tel. 800-2433

第3期下和泉地区地域福祉保健計画
平成28年度～32年度

発行：下和泉地区
社会福祉協議会



手をつなぎ広めよう 支え合いの輪
笑顔で健康なまち

目指すまちの姿

誰もが、笑顔で健康に
過ごせるまち

ご近所同士で、顔見知りの
関係が進んでいるまち

団体間の情報交換が
継続的に行われ、
多世代交流ができるまち

今後5年間、この目指すまちの姿に向かって、
住民同士 手を取りあって進めていきましょう

目標

取組

健康づくりに取り組もう！

健康寿命を延ばすための場や機会を増やします。
(ラジオ体操の普及、サロン活動、講座の開催など)

地域で子どもを育もう！

地域の園・学校・関連団体と連携して、
多世代が集える場をつくれます。
(シルバー・子育て・畑サロン、サマーフェスティバルなど)

地域の行事や活動等を
広げよう！盛り上げよう！

参加者や活動者が増えるよう、普及啓発をします。

助け合える関係づくりを進め、
活動を充実させよう！

自ら進んで挨拶をし、協働の意識や
向こう三軒両隣の関係を深めるために、
標語による啓発活動をします。



第2期（平成22年度～27年度）下和泉地区の活動の振り返り



コーヒーサロン



コーヒーサロンや八日会、子育てサロン、庭の手入れの会等、地域内で立ちあがった活動の継続支援を行いました。



八日会



下和泉役立ち隊



庭の手入れの会

ご高齢の方のちょっとした困りごとを解決する「役立ち隊」を発足！高齢者の見守り活動にもなっています。



懇話会

活動団体や地区シニアクラブ、町内会との懇話会を通じて、地域の活動や課題を知り、つながりを作るきっかけにしました。



研修会

新しい担い手の発掘・育成を目的に、研修会を行いました。地域デビューの後押しとなるような内容や健康づくりの講演会など行っています。



残された課題

- ・健康づくりなど活動の参加者の固定化
- ・幅広い世代の地域活動への参加
- ・子ども会の減少、ご近所同士の付き合いの希薄化
- ・地区内の活動や施設の情報が共有できていない
- ・地域の情報が必要な人に届かない



残された課題を第3期の計画に反映し、改善できるよう取り組んでいきます！

《 下和泉地区の概況 》

- 7町内会で構成されています。
- 歴史は70年と古く、和泉川沿いのゆったりとした緑豊かな地区ですが、道が狭く、交通の利便性にやや欠けることがあります。
- 居住年数が30年以上の方が多く、高層の建物がなく、自然に恵まれています。
- 畑が多く、地産の直販所が多くあります。
- 商店が少ないため、高齢化に伴い、買い物が困難な人が増えています。

下和泉地区 地域支援チーム

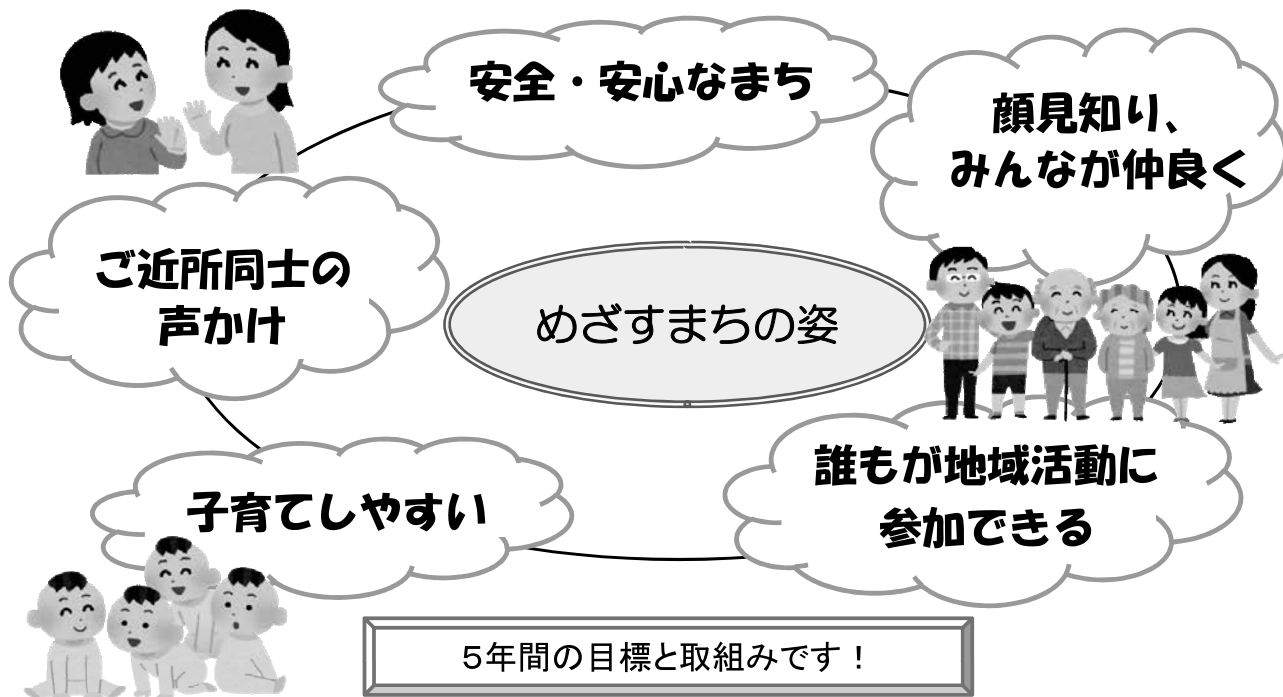
泉区役所福祉保健センター
TEL 800-2433
FAX 800-2516

泉区社会福祉協議会
TEL 802-2150
FAX 804-6042

下和泉地域ケアプラザ
TEL 802-9920
FAX 802-9927

第3期 富士見が丘地区地域福祉保健計画(平成28年度～32年度)

ご近所どうして助け合い
安全・安心・快適なまちづくり



**目標1: 地域活動に参加する
きっかけを作ろう**

- ・誰もが参加しやすい行事を企画し、広報活動に力を入れます
- ・趣味を活かした交流の場を作ります
- ・地域であいさつの輪を広めます

**目標2: 災害時に強い
つながりを作ろう**

- ・いざという時の備えとして、何が必要かを伝え、広めます(自助)
- ・災害時の備えや対策について、隣近所で話しができるよう意識啓発を行います(共助)

**目標3: 身近な場所で
健康づくりを進めよう**

- ・健康寿命を延ばす取組みを行います
- ・散策マップを活用して、富士見が丘地区の魅力伝えます

**目標4: 地域の中で「障がい」に
対する理解を深めよう**

- ・福祉施設と一緒に楽しめるような場所や機会を作ります
- ・障がい児・者についての理解を深められるよう工夫します

目標5: 地域で子育てを応援しよう

- ・成長段階にあわせた子育て支援を行います
- ・子育てサロン・サークル・ネットワーク連絡会などの活動を支援します

**目標6: 高齢者が生きがい
もてるようにしよう**

- ・身近で気軽に集える機会を増やします
- ・介護について考える機会を増やします

【 富士見が丘地区の概況 】

- 地区の面積が大きく、緑が豊富で自然環境が良い。その環境を生かした活動が活発である。
- 地区が南北に長く広いため、拠点となる場所までが遠く移動が困難。
- 福祉施設が数多く立地しており、地域とのつながりづくりがすすめられている。
- 「福祉の会」・子育てサロン・高齢者サロン・健康づくりなど、ご近所同士の助け合いの輪が広がっている。

第2期富士見が丘地区地域福祉保健計画
過去6年間(平成22年度～27年度)に取り組んできたこととその成果です！



「みんな集まれ！昔遊び」では、大人から子どもまで集い、昔話上映会やコマまわし、輪投げなどを楽しみました。



毎年、富士見が丘まつりでは、子どもたち同士でバルーンアートを楽しみ、交流の場としても、賑わっています。



子育て支援ネットワーク連絡会が参加し、子ども向けのおもちゃ作りコーナーや子育て支援活動をPRしました。



案山子コンテストは毎年参加団体が増え、平成27年度は21体が出展。障がい児・者施設や幼稚園等も参加しています。



障がい児・者施設の方々が、富士見が丘まつりに出店。一緒にお祭りを楽しんでもらっています。



障がい児・者施設の方々との意見交換会。普段感じているちょっとした疑問など地域の人たちと語り合いました。



年2～3回行われている「介護者のつどい」は、現在介護で悩まれている方や今後の介護に不安のある方が気楽にお話できる場です。



活動団体を紹介したパンフレット集(右上写真)とイベントカレンダー(右下写真)。参加者や支援者を増やし、毎年、改訂をしています。現在、掲載は73団体になりました。団体を紹介するパネルは、毎年富士見が丘まつりで展示しています(上写真)。また、年2回の推進委員会では、お互いの活動を振り返り、交流を深めています。

パンフレット集



イベントカレンダー



【お問い合わせ】富士見が丘地区地域福祉保健計画推進委員会

<事務局> 泉区役所福祉保健センター / 泉区社会福祉協議会 / 下和泉地域ケアプラザ
(TEL 800-2433・FAX 800-2516) (TEL 802-2150・FAX 804-6042) (TEL 802-9920・FAX 802-9927)

みんな仲間のまち 上飯田

～あいさつと笑顔とやさしさと～

目指す5年後のまちの姿

人とのふれあいを大切にし、
長く住みたいと思えるまち



緑を残しながら、みんなが
伸び伸び安全に過ごせる
公園や場所がある



多くの住民がボランティア
活動に参加している



小中高生は防災訓練等の
地域行事に、大人は学校行事
に参加している



上飯田地区はこんなまち

- ✿ 南北に長く、緑豊かなまち
- ✿ 定住率が高い
- ✿ 福祉施設が多い
- ✿ 市街化調整区域が多い
- ✿ 地域参加のボランティアがたくさんいる
- ✿ 地域の中に小・中学校の学区が入り交ざっている



【発行】上飯田地区地域福祉保健計画推進委員会 【編集】上飯田ワイワイ仲間

<事務局>

泉区役所福祉保健センター

電話：800-2433

FAX：800-2516

泉区社会福祉協議会

電話：802-2150

FAX：804-6042

上飯田地域ケアプラザ

電話：802-8200

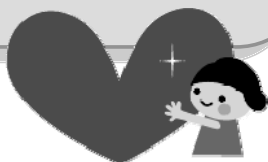
FAX：802-6800



第3期計画の取組計画

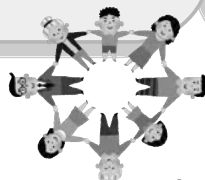
1. 安心・安全・環境にやさしいまちにします

- 「災害時要援護者支え合い事業」を広めます
- 防災訓練への中学生の参加を呼びかけます
- 町内の防犯パトロールを継続します（松風学園も協力）
- 誰もが集える場所を作ります
- 緑のまちづくり活動等、環境活動を継続します
- 悪質商法・振り込め詐欺防止等 PR 寸劇を実施します



2. 支え合い・助け合うまちにします

- いつまでも健康で暮らせるよう「健康体操」や「脳いきいき教室」などの健康づくり活動を継続します
- 認知症になっても安心して暮らせるまちを目指した、心が繋がる活動に取り組みます
- 高齢者、障がい者、子育て家庭をサポートする「お助けクラブ」の活動を PR し、新しい仲間を募集します
- 地域の福祉施設利用者との交流を継続します
- ふれあいサロンを継続・活動 PR をします



3. 世代間交流の場を増やします

- 小・中学生が地域活動（連合主催の運動会などの行事）に参加しやすい環境を整えます
- 地域清掃や軽スポーツ大会などへの参加を通して仲間を増やします
- 上飯田子育てネットワークの充実でパパ・ママを応援します
- ご近所との顔の見える関係や、小・中学生との交流（あいさつ・声かけ運動）を継続します
- 地域で活動する青少年グループを応援します



第2期計画（平成22～27年度）の成果

上飯田連合自治会で合同パトロールを年3回実施しています。また、平成24年からは松風学園も平日のパトロールに参加しています。

サロンの参加者がご近所も誘い合ったことで、サロンの参加者が増えています。

あいさつ運動を継続してきたことで以前よりも小・中学生からのあいさつが増えてきました。

「お助けクラブ」や「上飯田ワイワイ仲間」等の地域活動をお祭りや寸劇等のイベントでPRする事で地域住民に認知されてきました。

平成18年からスタートしました「お助けクラブ」のメンバーは、現在31名まで広がりました。

地域のお祭りや連合主催の運動会、清掃活動といった地域のイベントに中学生が協力しています。

小・中学校では子ども達を対象にした福祉体験や認知症サポーター養成講座を実施しました。

※「上飯田ワイワイ仲間」とは・・・
地域住民が主体となり上飯田地区の福祉を推進しているボランティア団体です。



第3期上飯田団地地区地域福祉保健計画(平成28年度～32年度)

支え合い、安心して暮らし続けることができる上飯田暖地

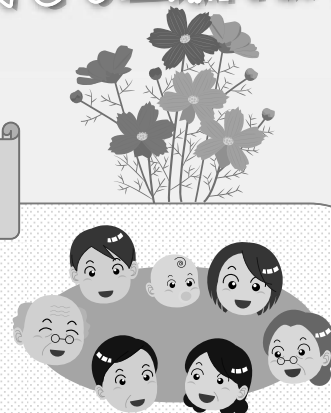


めざすまちの姿

日頃から
声をかけあい・支え合い
見守りあっていくまち

誰もが
「あいさつ」を
交わせるまち

気軽に活動の場に
参加できるまち



第3期の取組計画

目標

人と人とのつながりを大切にし、温かい人の輪を広げていく

～具体的な取り組み～

- 定期清掃や階段単位での日頃の見守り活動の継続
- 明るいあいさつ・声掛けを行います
- 高齢者の居場所づくりやお祭りなどのイベントの継続
- 「見守り会議」の継続

上飯田団地ってこんな町

- 市営住宅42棟と市営上飯田第2住宅で形成されています。
- 高齢化率が泉区で一番高いです。
- 支援の必要な一人暮らしの方や障がいのある方が多くお住まいです。
- 地域活動の担い手が少なく、役員が何役も兼ねて活動しています。

人口(平成27年2月) 2119人
 高齢者人口 65歳以上 1207人
 高齢化率 56.9%
 高齢者のみ世帯 891世帯
 ひとり暮らし高齢者 744世帯



サロン活動の紹介

◆カワセミサークル

内容： コーラス、健康体操、ウォーキング等
 場所： 上飯田地域ケアプラザ
 日時： 第2・4月曜日 10時～11時30分

◆ふれあいサロン

内容： 交流会（お茶のみ、塗り絵・カラオケなど）
 場所： 上飯田団地第1集会所
 日時： 第2水曜日 10時～11時30分

◆あゆみの会

内容： 高齢者食事会（65歳以上の独居・70歳以上の夫婦）
 場所： 上飯田団地第1集会所
 日時： 偶数月第3月曜日 11時30分～14時

◆第2あゆみの会

内容： 高齢者食事会（65歳以上の独居・70歳以上の夫婦）
 場所： 上飯田団地第3集会所
 日時： 奇数月第3火曜日 11時30分～14時

◆はなみずきの会

内容： 手芸など
 場所： 上飯田地域ケアプラザ
 日時： 第2土曜日 10時～11時30分

◆さわやか脳トレーニング

内容： やさしく・楽しく脳いきいき（体操・言葉遊び等）
 場所： 上飯田地域ケアプラザ
 日時： 第4土曜日 10時～11時30分

単一自治会でのサロン活動

第1自治会 ふれあい健康クラブ

- カラオケの会 第2・4火 13時～16時
 - マージャンの会 毎月第1・3木 13時～16時
 - バス旅行 随時開催
 - あみ物同好会 第2・4土 13時～16時
- 場所： 第2住宅集会所

第9自治会 10円会

内容： 体操、カラオケ、将棋
 輪投げ等
 場所： 上飯田団地第3集会所
 日時： 第1日曜日 13時～15時

第11自治会 陽だまりの会

内容： おしゃべり、
 フラワーアレンジメント等
 場所： 上飯田団地第3集会所
 日時： 第3水曜日 10時～12時

第2期計画のとりのくみ

- 見守り推進会議を組織化し、地域の見守り活動の報告、情報共有及び意見交換の場として、年4回「見守り会議」を実施しています。
 - 団地内の定期清掃で、「掃除は月一度大切にしよう『お元気ですか』のよい機会」を合言葉にして、あいさつを交わしたり、回覧やちらしの掲示での声掛け、熱中症予防の訪問などの見守りや安否確認を行っています。さらに、区内で高齢化が一番進んでいるため、一人暮らし高齢者等の見守り活動も行っています。
 - 多くのサロン活動が行われており、参加を通じて交流が図られ、見守りにつながっています。
 - 防犯・防災活動・環境美化活動（清掃・緑化）が進み地域の支え合いにつながっています。
- 第1期・第2期の取組が根付き、日頃からの見守り活動の意識が高い地域となりました。

お問い合わせ

〈上飯田団地地区地域支援チーム〉

泉 区 役 所 福 祉 保 健 セ ン タ ー
 TEL：800-2433
 FAX：800-2516

泉 区 社 会 福 祉 協 議 会
 TEL：802-2150
 FAX：804-6042

上 飯 田 地 域 ケ ア プ ラ ザ
 TEL：802-8200
 FAX：802-6800

こんにちは 你好 Xin chāo

みんな笑顔で支えあうまち

いちょう団地地区がめざすまち

みんなが地域を
知り、みんなが支
えあっているまち



みんなが活動の
場に参加できる
まち



多文化が共生
しているまち



具体的に取り組むこと

- ◆ みんなで声をかけあい、見守り合う活動を続けます。
- ◆ こどもを見守る活動を、保護者や学援隊をはじめ地域のみんなと協力していきます。
- ◆ 高齢者の疑似体験や、災害対策の学習会など、地域での支え合いについて学ぶ機会をもちます。

- ◆ 地域活動団体の情報を地域にPRして、参加者や担い手を広げていきます。(発表の場、体験記の紹介など)
- ◆ 国籍や年齢に関係なく、誰もが集まれるサロンなどの場所を続けます。
- ◆ いつまでも健康でいられるよう、体操教室などの活動を充実します。

- ◆ 団地祭などのイベントをはじめ、日常的な関わりの中で、多文化の交流を続けます。
- ◆ 外国につながる人達も積極的に地域活動の場に参加してもらえるよう、工夫をしていきます。
- ◆ 外国につながる人達が、日本語を学べる機会や活動を支援していきます。

【策定】いちょう団地地区社会福祉協議会

【問合せ】泉区役所福祉保健センター、泉区社会福祉協議会、上飯田地域ケアプラザ
電話 800-2433 電話 802-2150 電話 802-8200

今まで取り組んだこと

- サロン活動が、新しい企画も取り入れながら継続しています。
- あいさつをすることで近隣が意識し合えるようになり、新聞がたまるなどの変化に気づいて助け合うことも進みました。
- ゴミステーションの案内が多言語化されて、分かりやすくなり、ゴミの分別が進んでいます。(ベトナム語・中国語・カンボジア語・英語・日本語)
- 保育園や小学校を訪問して、地域のこどもたちとの関わりがひろがりました。

いちょう団地地区はこんなまち

- 県営住宅が48棟あります。
- ひとり暮らし高齢者や障害者、外国につながる人など、さまざまな支援を必要とする人が暮らしています。
- 外国につながる人達に参加できるお祭りなどを行っています。
- 居住者数 4476 人、入居世帯数 2036 世帯、60 歳以上の単身高齢者世帯 539 世帯、外国籍世帯 510 世帯 【平成 27 年 3 月 31 日現在】

いちょう団地地区での活動紹介

ふれあいサロン

カラオケ・映画鑑賞
毎月第2日・火・金 第4日・金
13時～15時
第1集会所



いちょうの会

70 歳以上のひとり暮らしの方対象
の食事会
概ね毎月1回 日曜日
11時30分～12時30分
第2集会所



まちぐるみ健康教室

「自分の健康は自分で守る」た
めの健康チェック、ストレッチ、
リズム体操
第2・4木曜日
13時～15時
いちょうコミュニティハウス

転倒骨折予防教室

転ばない身体づくり
ストレッチ、体操
第1月曜日
13時30分～15時
いちょうコミュニティハウス



いちょうサロン

小物作り、バス旅行、健康講座
第3木曜日
13時30分～15時
いちょうコミュニティハウス



脳いきいき教室

体操、音読・100マス計算などの
脳トレ
第2・4月曜日
13時30分～15時
いちょうコミュニティハウス

中田^い活^いき活^いきプラン

みんなで支えあい ふるさと中田

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支えあいによってだれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

中田のまち(中田連合地区)

- 世帯数 約 15,000 世帯 地方の市に相当する住民の方が生活しています。
 - 人口 約 33,000 人 30 自治会・町内会の連合組織です。
- 大運動会やサマーフェスティバル、敬老会、文化祭、新春健康マラソン大会など、様々な行事が行われ、地域住民がふるさと意識を高める機会がたくさんあります。

めざすまちの姿

- みんなが声かけあって健康で活力があふれているまち
- 高齢者が元気で楽しく暮らしているまち
- 子どもが健やかに育つために地域で子育て支援ができていくまち
- 障がい者施設と地域住民が日常的に交流できているまち
- 困った時にお互いに助け合える仕組みができていくまち



中田地区のみなさんの声

- ・高齢者がどう楽しく生きるか。⇒ 町内会の中の良い環境や支援の仕組みが重要。
- ・高齢者との交流を含めた、組織的な子育て支援を進めて行く必要がある。
- ・素晴らしい活動が「点」と「点」で行われていて、「線」や「面」になっていない。
⇒ 情報発信が必要(中田かわら版など) ⇒ 活動を知ることが大事
- ・会長が交代しても、それまでの「思い」や「活動」を組織的、継続的に引き継ぐことが大切。
- ・「健康づくり」は体力面と心の両面で進めていくことが重要。
- ・同じ地域で生活するもの同士として、障がい者施設と地域の住民との助け合いが重要。
- ・学校との連携による子どもたちの見守りを検討する必要がある。

第2期までの取組と第3期計画で実施すること

中田連合地区では、中田連合自治会・各自治会町内会をはじめとした諸団体が積極的に活動しています。中田連合地区経営委員会（福祉保健推進部会）では、こうした地域の諸団体が連携して活動できるように、次の3つの専門部会が平成21年度から継続して活動しています。

中田連合地区経営委員会の福祉・保健を考える部門 福祉保健推進部会		
日常の交流・見守りと 災害時の備えを目指す 要援護者支援システム部会	子育てサロンと公園遊びから 子育て支援の輪を広げる 子育て支援部会	地域と障がい者施設の 繋がりを考える 障がい者施設交流部会
中田地区民生委員児童委員協議会 を含む地域福祉関連諸団体が構成	中田地区社会福祉協議会を含む 子育て支援関連団体が構成	地域包括支援センターを含む中田 連合地区の障がい者施設で構成
【第2期までの取組の成果】		
<ul style="list-style-type: none"> 各町会14会場において高齢者サロンを開催 各町内会で要援護者カードを配布し、要援護者の支援体制を強化 全ての自治会町内会会長との情報交換会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てサロン・公園遊びの充実（参加者・スタッフ増、地域への定着） 地元主催の公園遊びの開催 新規会場での開催（第1公園） 寸劇フェスティバルへの参加（地域での子育て支援についてアピール） 	<ul style="list-style-type: none"> 泉区障がい福祉支援協議会（IHネット）に参加し、災害時の取組について検討。 施設と地域の交流の促進（町内会の防災訓練やお祭り等の地域の行事に参加）
<p>中田かわら版部会との連携強化・・・中田かわら版は、中田連合地域の情報紙として継続的に発行し続け、平成27年度には100号を超えました。地域福祉に関連する情報に関しても、この中田に根付いた地域情報誌において、多数掲載してきました。</p>		

【第3期計画で実施すること】		
<p>◎見守りや支援のために各部会が役割を分担すると共に、必要に応じて連携した取組を行います。</p> <p>◎中田かわら版部会との連携をし、積極的に中田地区のみなさんへ情報発信を行います。</p>		
<p>◎要援護者支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 要援護者支援カードの見直し 高齢者サロンを行う会場の増 全自治会町内会会長との情報連携 連合の防火防犯部や防災拠点との連携 	<p>◎公園遊びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎子育て中の母親のサポート支援 ◎啓発活動（学習会、寸劇制作等） ◎他地区の子育てネットワークとの交流（中田地区から発信） 	<p>◎地域との交流促進（防災訓練等地域の行事への参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎町内会活動への参画（スタッフ側として） ◎交流イベントの開催

中田連合地区経営委員会 福祉保健推進部会	（問い合わせ先）	泉区役所福祉保健センター	800-2433
		泉区社会福祉協議会	802-2150
		踊場地域ケアプラザ	801-2920

明るい笑顔のあるまち しらゆり

しらゆり地区の概況

- しらゆり公園があり、緑豊かな地区。坂が多い！
- 65歳以上の高齢夫婦のみの世帯の割合が泉区で一番高い！
- 地区の活動拠点となる施設は……
しらゆり公園、しらゆり集会所、白百合愛児園

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支えあいによってだれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

しらゆりがこんなまちになったらいいな ……

めざすまちの姿

見守り

お互いにちょっとした相談や手助けができる人が身近にいて、歳を重ねても安心して暮らせるまち

交流・活動

みんなが気軽に交流でき、地域の活動に参加できるまち

健康

こどもから大人まで元気に明るい笑顔があふれるまち



こんなこともしています！ こんなことができるかも……

参加してくれる人が増えるように、活動の周知方法をもっと工夫しよう！
(地域の新聞への掲載など)

地区では盛んに“グランドゴルフ”や“ペタンク”が行われているね！

坂があって高齢者サロンに来られない人にも参加してほしいし、ひとり暮らし高齢者の参加者をもっと増やしたい。
スタッフが確保できれば、出張もできるかな…

スポーツ部は 3 年前に北海道発祥の“南中ソーラン”を踊るのに子ども達が集まったのがきっかけで、今に続いているんだって！
それは見事なんだから！

地域で活動できる人が
できることから
始めよう！



子ども会の活動はまあまあ盛んだけど、女性も働いている人が多くて忙しい。
お年寄りに協力してもらえたら嬉しいな…

子育てサロンの活動で他の団体ともつながりが持てたらいいな…

“公園遊び”では中田地区と合同でいろいろな公園に出かけて遊んでいるよ！

しらゆり助っ人隊 (SST) ができました！！

見守り

NEW

- ・ 70歳以上の高齢者世帯を対象に、庭の手入れや家内清掃、照明器具交換や家具の移動などを行う地域の助け合い活動「しらゆり助っ人隊 (SST)」が、平成 27 年 12 月から活動を開始しました。

しらゆり地区の第3期計画の「目玉」として、取組を進めていきます。

お手伝いできる方、お願いしたい方、どちらも募集中です。お気軽にお声がけください。



しらゆり地区ではこんな活動をすすめていきます！！

交流・活動（サロン）

すこやかクラブ21

高齢者対象のサロン活動。ハマちゃん体操、ストレッチ体操などの軽い体操、健康マージャン、懐メロ合唱、おしゃべりなど、皆さんに楽しんでもらっています。

<第2期の取組・成果>

ケアプラザの協力を得て、専門家の講習など、内容の幅も広がり、皆でノルディックも楽しんでいます。

<第3期の取組>

しらゆり集会所に来ることが難しい高齢者も参加できるように、出張会場として、各自治会町内会の会館などの利用を検討します。



ひよっこ教室

新生児～3歳児までの親子を対象に子育て支援、若いママの子育てアドバイス、離乳食指導、人形劇鑑賞などを行っています。

<第2期の取組・成果>

子育て中のママたちの仲間づくりができ、また、白百合にこここパークで声をかけてくれバザーに出店することができました。

<第3期の取組>

すこやかクラブ21とひよっこ教室と一緒に活動する機会を増やし、多世代交流や地域間交流を進めます。



サロン・チートイツ

会社人生を卒業した男性の居場所づくりを目指した健康マージャンです。

<第2期の取組・成果>

活動を始めて6年、男性の参加者も増え、男女ともに楽しめる地域の交流の場となっています。

<第3期の取組>

みんなが気軽に集まれるサロンとして引き続き活動を行い、男性の参加者をさらに増やしていきます。



見守り

ひとり暮らし高齢者食事会

65歳以上のひとり暮らし高齢者を対象にした食事会です。

<第2期の取組・成果>

高齢者の見守りの仕組みの一つとして実施し、毎回約50人が参加しました。

<第3期の取組>

演芸グループの招聘を増やし、更に皆さんが楽しめるよう内容を充実させます。



健康

町ぐるみ健康体操教室

講師の指導のもと健康体操を実施。ときどき付近のコースの健康ウォーキングも行っています。

<第2期の取組・成果>

講師によるストレッチ、マット、ボールを使った軽い運動を月2回実施し、高齢者の体力維持に役立てることができました。

<第3期の取組> 健康体操を引き続き実施し、参加者を増やしていきながら、高齢者の健康づくりを進めます。



スポーツ部

毎週日曜日、親子を対象に東中田小学校で南中ソーランや縄跳び、ドッジボール、バスケット、バドミントンなどを行っています。

<第2期の取組・成果>

これまで、東谷、白百合東、朝日の3町会の親子を対象に実施してきました。

<第3期の取組>

しらゆり地区全体の活動として位置づけ、他自治会町内会の参加者を増やします。



しらゆり地区地域福祉保健計画懇談会

(問い合わせ先) 泉区役所福祉保健センター TEL 800-2433
 泉区社会福祉協議会 TEL 802-2150
 踊場地域ケアプラザ TEL 801-2920

第3章 区計画

1 区計画の位置づけと役割

区計画は、各地区に共通する課題や、地区だけでは解決できない課題に対して、地区の取組を支援するための計画です。

区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが、区民・活動団体・関係機関等と協働して地区の多様な課題に対して取り組んでいきます。

2 具体的取組

区計画は、地区別計画と同様に、「支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」の基本理念を実現するために、3つの推進の柱に沿って、5年間で特に力を入れることを重点項目に定め、推進していきます。

また、重点項目ごとに示す行動計画に基づき、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが行う具体的取組は、毎年度「事業計画」として明らかにし、進捗状況を把握し、実施結果を公表すると共に、次年度以降の取組に活かします。

基本理念

支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉

【目指すまちのイメージ】

- 1 子どもが元気に友達と遊んでいる姿
- 2 地域全体で楽しく子育てをしている姿
- 3 地域に暮らす誰もが、生きがいをもっている姿
- 4 自ら主体的に健康づくりに取り組んでいる姿
- 5 必要な時には周りの助けを得て、誰もが安心して暮らしている姿
- 6 日頃のご近所付き合いが防災や防犯にもつながっている姿
- 7 困った時に「お互いさま」の気持ちで助け合える姿
- 8 孤立しがちな人もまわりとつながる姿

推進の柱 1 健やかに過ごせるまち

- 重点項目 1 健康寿命を延ばすための健康づくりを進める
- 重点項目 2 安心して暮らし続けられる環境をつくる

推進の柱 2 人と人、活動と活動のつながりがあるまち

- 重点項目 1 地域の中でより多くの人との交流を進める
- 重点項目 2 活動のネットワークと連携を強化する

推進の柱 3 地域活動への参加がすすむまち

- 重点項目 1 地域活動の担い手を養成する
- 重点項目 2 地域の活動に関心を持つ人を増やす

推進の柱 1

健やかに過ごせるまち

健康であることは、自分らしくいきいきと暮らすために重要な要素の一つであり、心身の健康は、大きな関心のあるテーマといえます。

健康な心身をつくるためには、より良い生活習慣をつくることが重要です。特に、子どもが健やかに育つ環境をつくることや、体力の低下や認知機能の低下といった加齢に伴う心身の変化についても正しく理解した上で、予防等を行っていくことが大切です。

そのためには、気軽に健康づくりを始められるようなきっかけづくりや、始めた活動を継続しやすくなるように工夫していくことが大切です。さらに、サポートが必要になった時に、気軽に相談できること、適切な相談や支援が受けられるような仕組みを作ることが必要です。

この柱では、自分自身や家族が、心も体も健やかな状態で自立した生活が送れること、さらに、健康づくりをきっかけに地域での仲間づくりや様々な活動につなげられることを目指します。

また、生活上で気になることや困りごとがある時には、気軽に相談し、必要なときには周りの助けが得られるよう、窓口体制や支援体制の充実に向けた取組を進めます。

重点項目 1 健康寿命を延ばすための健康づくりを進める

- 1 それぞれの年代に応じた健康づくり
- 2 介護予防の推進
- 3 認知症の予防・早期発見

重点項目 2 安心して暮らし続けられる環境をつくる

- 1 利用しやすい相談窓口体制の推進
- 2 妊娠期からの切れ目のない子育て支援
- 3 住み慣れた地域で安心して暮らせるための仕組みづくり

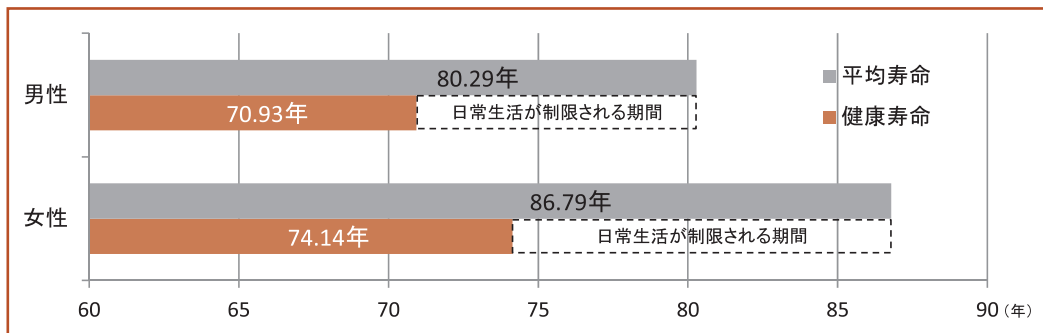
重点項目 1

健康寿命を延ばすための健康づくりを進める

健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されています。いつまでも健康的で自立した生活を送るためには、平均寿命だけでなく健康寿命を延ばすことが必要です。

また、要介護認定者のうち、認知症等により日常生活に支障をきたすような症状・行動があるとみなされる人の割合が半数以上を超えることから、認知症対策を含めた介護予防を推進していくことが重要です。

【横浜市の平均寿命と健康寿命】 資料：厚生労働省（平成22年）



行動計画

1 それぞれの年代に応じた健康づくり

- 「よこはまウォーキングポイント事業」(※)と連動しながら、ウォーキングをはじめとした運動を日常生活の中で習慣化できる区民を増やします。
(※よこはまウォーキングポイント事業：40歳以上の市民の方に、歩数計を持って楽しみながら健康づくりを進めていただく事業です。)
- 「バランスよく食べる」「塩分少なめ」「野菜たっぷり」の食習慣づくりを進めます。
- 禁煙活動を推進するとともに、子どもの喫煙防止教育を進めます。
- 子どもの頃から定期的に歯と口腔の健康チェックを行い、虫歯予防、歯周病予防に取り組みます。
- 死因の第1位であるがんについて、がん検診を上手に活用して、早期発見・治療に努める区民を増やします。

2 介護予防の推進

- 元気なうちから介護予防に取り組む区民を増やすため、講演会やイベントの実施等を通じた普及啓発を図ります。
- ロコモティブシンドローム（※）の予防を呼びかけ、その防止を実践する区民を増やします。
（※ロコモティブシンドローム：骨や関節、筋肉などの運動器の障害が移動能力を低下させてしまい要介護になる危険の高い状態をいいます。）
- 健康長寿を目指して、その大切さに気づき、健康づくりを実践するための講座の実施や、グループ活動への支援を行います。

3 認知症の予防・早期発見

- 認知症の正しい理解、予防のための生活習慣についての啓発を進めていきます。
- 認知症の予防活動を地域で広める活動を行う、脳若返り隊を養成し、活動を支援します。
- 認知症の早期対応のため、専門医等による相談対応を行います。

コラム

健康寿命を延ばすためのより良い生活習慣



生活習慣は、年齢や就学・就業の有無などに大きく影響を受けます。横浜市では、第2期健康横浜21（計画期間 平成25年度～34年度）を策定し、3つのライフステージに分けて行動目標を設定しています。

- ①育ち・学びの世代（乳幼児期～青年期） ②働き・子育て世代（成人期） ③^{みの}老いの世代（高齢期）
一度にすべての目標を目指すことは難しくても、まずはあなた自身ができそうなことから、実践してみませんか。

行動目標		育ち・学びの世代 （乳幼児期～青年期）	働き・子育て世代 （成人期）	老いの世代 （高齢期）
生活習慣の改善	食生活	3食しっかり食べる	野菜たっぷり・塩分少なめ バランス良く食べる	「口から食べる」を維持する
	歯・口腔	しっかり噛んで食後は歯磨き	定期的に歯のチェック	
	喫煙・飲酒	受動喫煙を避ける	禁煙にチャレンジ お酒は適量	
	運動	毎日楽しくからだを動かす	あと1,000歩、歩く 定期的に運動する	歩く・外出する
	休養・こころ	早寝・早起き	睡眠をとってしっかり休養	
生活習慣病の重症化予防			定期的ながん検診を受ける 1年に1回特定検診を受ける	

資料：第2期
健康横浜21

重点項目 2

安心して暮らし続けられる環境をつくる

生活上の困りごとを気軽に相談できる窓口は増えていますが、相談内容は多様化、複雑化しています。そのため、相談対応能力の向上や関係機関の連携はもちろんのこと、公的・専門的なサービスを希望する人が必要な情報を得られるよう、効果的に情報を提供発信することが必要です。

また、安心して地域で暮らせるよう、相談を待つだけでなく、公的機関が積極的にアプローチし、制度などの積極的な活用を推進して、適切な支援につなげられるような環境づくりを進めることも必要です。

併せて、今後のさらなる高齢化を見据え、いつまでも住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、介護保険制度を中心とした医療・介護などの様々なサービスを利用できる仕組みづくりを進めることが重要です。

行動計画

1 利用しやすい相談窓口体制の推進

- より多くの場所で専門的な相談を受け止める体制づくりや相談窓口の周知を進めます。
- 様々な相談に対応できるよう、関係機関の職員等を対象とした研修会等を開催し、相談対応者の対応能力の向上を図ります。
- 公的サービスの相談だけでなく、様々なニーズに対応できるよう、インフォーマルサポート（※）やボランティア活動等のサービスの仕組みづくりを進めます。（※インフォーマルサポート：ここでは、公的な「福祉サービス」だけでなく、日常の見守りや声かけ、家事や送迎の援助など、身近な生活課題を解決するための取組のことを指します。）

2 妊娠期からの切れ目のない子育て支援

- 養育者が安心して子育てできるよう、母子健康手帳交付や、乳幼児健診等の機会を活用し、適切な支援につなげます。
- 養育者の多様な保育・教育ニーズに対してきめ細かな相談、情報提供等を行います。
- 新入生とその保護者が小学校入学による生活や環境の変化にスムーズになじめるよう、保育園・幼稚園・認定こども園・小学校・放課後キッズクラブ・放課後児童クラブ等の相互連携をさらに進めていきます。
- 孤立や疾病等による育児不安から児童虐待につながるリスクを減らし、有効な支援につなげるために、広報や講演会等による啓発を進めていきます。

3 住み慣れた地域で安心して暮らせるための仕組みづくり

- 高齢者や要介護者が在宅で継続的な医療・介護を受けることができる仕組みづくりを進めます。
- 地域に暮らす高齢者等が孤立せず、必要な支援を受けられるよう、見守り事業や相談等を行います。
- 認知症など的高齢者を介護する人が孤立しないよう、介護者の集い等を行います。
- 経済困窮等、生活していくことが困難になっている人に、継続的な生活の安定・自立を目指した支援を行います。
- 認知症高齢者や障害者等の財産を守る権利擁護や成年後見（※）等の理解を進め、制度の活用を推進します。
（※成年後見：認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な方々の権利を守り、支援する制度です。）
- 障害者・高齢者への虐待の早期発見・対応ができるよう区民への啓発を進めるとともに、発見時やその後の適切な対応ができるよう、関係機関と綿密に連携します。

コラム



権利擁護事業

認知症のために判断能力の低下した高齢者が、悪質商法で高額な商品を買わされる事例が多発しています。皆さんの身近に困っている人はいませんか？

成年後見制度は、認知症や障害で判断力が不十分になった人が、日常生活の中でいろいろな契約や手続をする時に、本人に代わって手助けする制度です。

この制度を利用するには、家庭裁判所への申し立ての手続が必要です。区役所・地域ケアプラザ（地域包括支援センター）・区社会福祉協議会にお問い合わせ下さい。



コラム



生活困窮者自立支援制度

平成27年4月1日から生活困窮者自立支援制度が、最後のセーフティネットの生活保護相談と同じ窓口で新しく始まりました。経済的に困窮する状況の多くには、背景に、借金やリストラ・倒産・失業、ひきこもりによる長期無業、病気や障害、家族関係の悪化・DVなどの問題が複雑に絡み合っています。相談を受ける中で、何に困って、何が原因なのか、どうすれば解決していいのかを、本人と一緒に考えて、自立に向けてのプランを作成していく「伴走型」の支援制度です。そのためには、その方の必要性に応じて地域にある社会資源（社会福祉協議会、地域ケアプラザ等）や市民活動団体・グループの方々とも連携し、地域のつながりをも活かした生活再建をお手伝いしていきます。地域社会の中でその人らしい尊厳のある生活を続けていくことこそが、本人の「自立」につながるものだと考えているのです。

生活困窮者自立支援制度の案内は、区内各地域ケアプラザにもあります。

放課後児童育成事業

小学生が放課後を楽しく安全に過ごせる場所として、3つの施設があります。各小学校に設置されている「放課後キッズクラブ（キッズ）」または「はまっ子ふれあいスクール（はまっ子）」と、地域で運営されている「放課後児童クラブ（いわゆる「学童保育」）」です。

キッズは、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所を提供し、はまっ子は、異年齢児間の交流を通じて児童の創造性、自主性、社会性を養う放課後の居場所を提供しています。放課後児童クラブは、就労等の理由で、昼間保護者がいない子どもたちが、安全で豊かな放課後を過ごすための居場所を提供するなど、それぞれの施設が特色を持って運営しています。

横浜市ではこれまで、保育所待機児童解消に積極的に取り組んできましたが、小学校入学を機に仕事と育児の両立が難しくなる状況（いわゆる「小1の壁」）が課題となっています。

このため、平成31年度までに全小学校のはまっ子をキッズに転換するとともに、放課後児童クラブへの支援を推進していきます。



推進の柱2

人と人、活動と活動のつながりがあるまち

いつまでも住み続けたいと思えるまちになるためには、地域に顔見知りがいること、共に活動する仲間がいることが大切です。地域での支え合いには、「近所でのあいさつ・声かけ」「近所での普段からの付き合い」が重要であるという声が多いことから、ご近所の力の大切さは多くの人が意識しています。

また、地域の中には様々な人が住んでいます。日頃の生活の中では関わりのない人であっても、必要なときにお互いに助け合うためには、誰もが同じ地域で暮らす仲間という意識を育むことが必要です。

さらに、区内には保健・医療・福祉・介護の関係機関があり、自らの活動の活性化等のため、各機関の特色を活かした取組を行っています。

この柱では、年齢や立場に関係なくいろいろな人と交流し、仲間をつくること、さらに関係機関同士がつながり、課題解決に向けた検討を進め、活動の活性化を図ることを目指します。

また、誰もが地域に住む仲間として「困ったときはお互いさま」の気持ちを持ち、助け上手・助けられ上手になれるよう、日頃からのつながりづくりを進めます。つながりは、地域の共助の力を高めるだけでなく、まちの防災・防犯活動を進めるうえでも大きな力を発揮するものです。

重点項目1 地域の中でより多くの人との交流を進める

- 1 様々な人との交流の推進
- 2 サポートが必要な人への理解の推進

重点項目2 活動のネットワークと連携を強化する

- 1 共通課題の解決に向けた取組の推進

重点項目 1

地域の中でより多くの人との交流を進める

誰もが同じ地域で暮らす仲間という意識を持てるようにするには、交流し、お互いを知ることが第一歩です。そのために、楽しみながら多くの人と触れ合える機会や、日頃関わりの少ない人について学習・交流できるような機会を設けます。

また、生活の中で暮らしにくさを感じている人がいることを理解し、地域全体でどのようにサポートできるかを考えることも重要です。日頃からの交流や理解を進めることで、必要な時に助ける・助けられる関係づくりを進めます。

行動計画

1 様々な人との交流の推進

- 「参加者が一緒に楽しむ」ことを目的に、障害児・者と中学生・高校生、青少年指導員、民生委員・児童委員等との交流を進めるため、「ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会」の開催を支援します。
- 小・中・高校生や保護者に対し、乳幼児や高齢者、障害者についての学習・体験をしてもらう機会を提供し、理解を進めるための機会を企画・実施します。
- 施設などでの誰もが参加できるお祭りのような場で、活動グループを知ってもらうための機会を設け、活動グループと地域住民の交流を進めます。

2 サポートが必要な人への理解の推進

- 子育て世代が不安や悩みを抱えながら子育てをしている実情を理解し、周囲からのサポートを進めるためのきっかけとなるよう講座を開催する等、働きかけを進めます。
- 障害児・者や家族が感じる、生活上支障があることを知り、周囲ができるサポートを考えるきっかけとなる講座の開催等普及啓発を行います。
- 障害児・者への理解を深めるきっかけづくりの場として、障害児・者団体、障害福祉施設、地域作業所による自主製品販売支援の継続、業務依頼を行います。
- 障害児・者の余暇支援と、一緒に活動するボランティアの育成を行います。
- 認知症高齢者を理解し、支える認知症サポーターの養成と活動支援を行います。

重点項目 2

活動のネットワークと連携を強化する

泉区は、地域で気軽に参加できるサロン等の活動グループや、福祉施設が数多くあり、それぞれの活動が活発であることが特色です。その場に多くの方が集い、アイデアやヒントを出し合うことで活動を活性化することや、いろいろな人々との交流を進めることが重要です。

また、保健・医療・福祉・介護分野の関係機関との連携を強化し、区域で共通する課題を整理し解決していくための取組を進めることが必要です。

行動計画

1 共通課題の解決に向けた取組の推進

○同じ分野で活動している地域の活動グループや関係機関等による連絡会議を開催し、共通する区域の課題を整理しながら、解決方法を検討します。

○子どもの育ちや親の不安を支えていくための子育て課題を多様な視点から解決するため、子育て支援ネットワークによる関係機関との連携を進めていきます。

○地域の様々な団体や民間企業等と協働し、当事者の社会参加・自己実現を進めている泉区障害福祉自立支援協議会（※）を支援します。

（※泉区障害福祉自立支援協議会：泉区内の障害者団体や障害福祉サービス事業所などで構成された、障害者関係団体等の連携強化を目的とした団体です。）

○高齢者の自立を支援し、地域で高齢者を支えるネットワークを強化するため、地域ケア会議を開催して個別ケースの課題分析等を積み上げ、地域の課題を把握することで、課題解決のために必要な地域資源の開発・地域づくり・市の政策への反映等につなげていきます。

コラム



ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会

「ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会」は、中学生から大学生までの学生ボランティアと障害のある方が軽スポーツと一緒に楽しみ、交流し、相互理解を深めることを目的に毎年開催されています。この大会は、区内の障害者をはじめ、障害福祉サービス事業所、青少年指導員、民生委員・児童委員、中学校長会の皆様が構成された実行委員会が運営しています。年々規模が拡大し、現在では区内の一大イベントとなっています。

24回目を迎えた平成27年度はおおよそ1,500名の区民の皆様が参加し、軽スポーツに加えて、横浜を拠点にしているプロバスケットボールチーム 横浜ビー・コルセアーズのチアリーダーズ B-ROSE により制作されたオリジナルのダンスを参加者全員で踊りました。

泉区障害福祉自立支援協議会

泉区障害福祉自立支援協議会（以下 協議会）は、障害福祉分野を取り巻く地域課題の解決や障害福祉サービス事業所等のネットワークの構築を目的に、平成18年11月に設置されました。

地域活動ホームかがやきと区役所が事務局となり、約70の障害児・者に関する機関および当事者が参加して、障害児・者の福祉に関する会議、研修、余暇活動支援など様々な活動に取り組んでいます。

平成27年度は横浜市水道局と協働し、協議会に参加している事業所が運営する5つのカフェで、8月1日の「水の日」からの2か月間、水源林の大切さについてPR 活動を行うとともに、横浜市の水源地の1つである「道志の森」の特産物を使用した特別メニューの販売などを行いました。

子育てネットワーク支援事業

家族のあり方が多様化する中で、子育て家庭のニーズも多様化しており、様々なニーズに対応するためには、地域で子育て支援に関わる関係機関、団体、活動者間のネットワークづくりや担い手の育成等が必要となっています。

泉区では、区全体での現状共有と課題解決の推進を目的とした「泉区子育て支援ネットワーク連絡会」と、より身近な地域での実態把握ときめ細かな対応、顔の見える関係づくりを目的とした「エリア別子育て支援ネットワーク連絡会」（地域ケアプラザエリアごとに開催）が車の両輪となり、ひとりひとりの子どもの育ちと親を支えていくためにどのような支援が必要なのか、子育て支援機関・団体・地域と行政で情報を共有し、課題解決に向けた検討を行い、活動を進めています。

また、「子育てサロン」を開催する地域ボランティアや、「親子サークル」のリーダーを対象とする連絡会・研修会を開催し、活動の担い手に対するサポートの充実に取り組んでいます。



推進の柱3

地域活動への参加がすすむまち

泉区全体で見ると、「地域活動・ボランティア活動に参加している人」の割合はあまり多くない一方、「きっかけがあれば参加する」と考えている人がいます。この人たちが、参加したいと思えるようなきっかけづくりが重要です。多くの人が地域活動に参加できるようになるための働きかけとしては、「参加に必要な情報の提供（場所・内容等）」、「親しい人に誘われるなどのきっかけ」、「体験会など、初めての人が参加しやすくなる工夫」が必要という答えが多くありました。

一方、受け入れる側も活動する人へ望むことがあり、双方の要望をうまくコーディネートすることが必要です。また、担い手の育成は地域だけでできるものではありません。区全体として、きっかけづくりのための講座等の開催、新たなグループの立ち上げの支援等の仕組みをつくる必要があります。

この柱では、活動に関心を持つきっかけをつくり、参加してみたいという気持ちを多くの方に持っていただけるよう、一人ひとりの持つ知識や経験を最大限活かす・暮らしているまちへの関心を高める・人材をしっかり育成し、活動を継続・発展させるといった視点を持ちながら、取組を進めます。

地域活動に積極的に参加して人とのつながりを持つ人は、活動していない人と比べて健康で自立した生活を長く続けられるという調査結果もあります。地域の活動に参加することは、地域の活性化だけではなく、自身の健康づくりにもつながります。

重点項目1 地域活動の担い手を養成する

- 1 新たな担い手の育成
- 2 担い手と地域活動のコーディネート
- 3 活動が継続するための支援

重点項目2 地域の活動に関心を持つ人を増やす

- 1 地域情報や活動に関する情報発信
- 2 地域を知るきっかけづくり

重点項目 1

地域活動の担い手を養成する

多くの地域では、担い手が固定化・高齢化していることから、担い手は幅広い世代が必要です。特に仕事のリタイア前から地域の活動に関心を持ち、地域活動にスムーズに参加できるように、担い手の育成やコーディネートを行うことが重要です。

また、既存の活動グループが継続し、より発展するためのサポートや、新たに立ち上がろうとしている活動グループが自主的に活動していけるようなサポートが必要です。

行動計画

1 新たな担い手の育成

- 地域での新たな担い手を育成するため、これから地域に戻る世代（50～60代）を対象とした講座を開催します。
- 趣味を楽しむことや、仕事で得たスキルを活かした活動が始められるような講座を開催し、地域で仲間と一緒に楽しむ機会を設けます。
- 障害者の理解と活動のサポートをする担い手の育成として、ボランティア講座を実施します。
- 社会福祉施設や事業所の利用者が、地域活動に参加したり関わったりすることができるように取り組みます。

2 担い手と地域活動のコーディネート

- 地域デビュー講座や担い手育成の講座を修了した人が、地域で活動している団体や活動グループに参加できるようにコーディネートします。
- 地域で行われている活動をまとめ、活動の参考となるよう、情報を整理し、提供します。

3 活動が継続するための支援

- 地域の活動グループへの相談・助言をはじめとする運営面での支援を行います。
- 地域の活動グループの運営のための研修会を企画・実施します。
- 現在活動している人が地域の中心となり、より一層活躍できるよう、様々な地域の課題を協力し合いながら解決する力を身に付けるための講座を開催します。
- 各種講座の終了後に自主活動のグループ化につながるよう、活動グループの立ち上げや、運営方法等の支援を行います。

コラム



元気づくりステーション事業

高齢者が地域の中で人とつながりながら、健康で生きがいのある活動的な生活を送ることができるように、身近な地域で気軽に介護予防のグループ活動に取り組んでいくことが大切です。そこで、市内在住の高齢者の介護予防グループの立ち上げなどを支援しています。

下和泉地区では、ボランティア9名と麻雀初心者20名が元気づくりステーション「下和泉健康麻雀クラブ」として平成27年5月に活動を開始しました。毎月2回、下和泉地域ケアプラザで健康麻雀・健康体操等を中心に「健康麻雀を楽しむ・健康増進・認知症予防・会員相互の親睦」の4つを目的として楽しく活動中です。半数以上の方が皆勤賞で「新しく覚えるのは大変だけど、楽しいです」との声が聞かれます。

元気づくりステーションについては、区役所・地域ケアプラザ（地域包括支援センター）にお問い合わせ下さい。



コラム



泉区ボランティアセンター

泉区ボランティアセンター（以下、「ボラセン」）は、支援が必要な高齢者、障害者、子育て中の家族等からの依頼に基づいて、登録されているボランティア（団体含む）の紹介を行い、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるようにお手伝いをしています。

ボラセンの活用例を紹介します。子どもが区内小学校の個別支援学級へ通う際、付添いが必要な子どもがいます。家族が付き添えばよいのですが、その通学時間にもう一人の子どもを幼稚園に送る必要があるなどによって、通学に付き添えない場合があります。子どもの通学のことで困っているとの相談がボラセンにあると、ボラセンでは登録しているボランティアに連絡します。そして、いろいろな条件を確認し、本人や家族、ボランティア、関係者（担任の先生等含む）が打合せた上で、通学の付き添いを何度か試しながら、最終的には、その子どもにボランティアが付き添い、通学支援をしていきます。

今後ますます高齢化が進み、これまで以上に支援が必要な高齢者等を地域で支えていくために、活動グループや個人の担い手の育成、発掘が求められます。そうしたニーズにしっかり応えていくための新しい取組も考えています。今後、より必要とされる地域の担い手の確保と育成に取り組み、いつまでも安心して生活が続けられる地域社会の実現を目指していきます。

重点項目 2

地域の活動に関心を持つ人を増やす

自治会・町内会をはじめとして、地域の福祉・環境・防犯・防災等、様々な課題に取り組んでいる活動は数多くあります。しかし、多くの区民は、地域活動が行われていることを知っていても、参加につながっていないという現状があり、参加する人を増やしていくことが大事です。

また、決まった活動には参加していなくても、地域のために自らができる範囲で行動する、ということも地域活動であると考えられます。そのためには、地域活動に共感し、興味・関心を持つことが第一歩です。区民それぞれの世代や分野で関心のある情報を、得やすい方法で発信するための取組を進めることが重要です。

行動計画

1 地域情報や活動に関する情報発信

○地域の状況や行われている活動が的確に伝わるよう、対象や内容を明確にしなが
ら、様々な媒体を活用した情報発信を行います。

2 地域を知るきっかけづくり

○地域の活動を知り、参加するきっかけを作るため、地域の活動を周知するための
イベントを企画・開催します。

○関心の高い事項や、地域でどのような活動が求められているのか等を的確に把握
するため、幅広い区民を対象とした調査を実施し、ニーズに合わせた講座等を企
画・実施します。

第4章 計画の推進体制・進行管理

第3期泉区地域福祉保健計画の推進にあたっては、その推進体制を整えるとともに、進行を管理することで、基本理念の実現を目指します。

1 計画の推進体制

(1) 泉区地域福祉保健推進協議会

泉区地域福祉保健計画は、地区別計画推進組織、活動団体、関係機関等で構成される「泉区地域福祉保健推進協議会」において、計画全体の進行管理（振り返り）、活動情報の共有、計画推進における課題やその対応策の検討、及び新たな提案等を行い、区計画や地区別計画の推進に活かします。

(2) 地区別計画

地区別計画は、第1期・第2期計画と同様、地域が主体的に策定し、地区ごとの課題解決に向けて地域主体の取組を進めます。

各地区では、地区別計画を推進する組織（推進委員会、地区社会福祉協議会など）が形成されています。この推進組織を中心として、地区での活動を展開しています。

活動を進めていくのは、地区によって違いはありますが、連合自治会・町内会、地区社会福祉協議会、地区経営委員会、民生委員児童委員協議会等の地域組織や、個人、活動団体、関係機関などです。幅広く連携してよりよい地域づくりを行うための取組を進めます。

また、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザで構成する地域支援チームが、地区の活動を支援します。

(3) 区計画

区計画は、地区別計画を支えるために、区域に共通する課題解決に向けて、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心となり、区民や関係機関と協働した取組を進めます。

2 計画の進行管理

(1) 計画全体

第3期泉区地域福祉保健計画全体としては、推進3年目にあたる平成30年度に、これまでの取組状況と残りの2年間を見据えながら、中間振り返りを行い、より効果的な計画推進を目指します。また、計画の最終年度である平成32年度には、計画の総合評価を行い、次期計画の策定に活かします。

(2) 地区別計画

地区別計画は、第2章「地区別計画」で掲げた内容に基づき、各地区の地区別計画推進組織が中心となって年度ごとに振り返り、次年度の行動計画に活かします。地区により異なりますが、一例としては、単年度の行動計画（アクションプラン）を作成し、各戸配布などの方法で周知しながら取組を進めています。

また、広報よこはま泉区版の紙面を活用し、地区別計画の取組を紹介します。

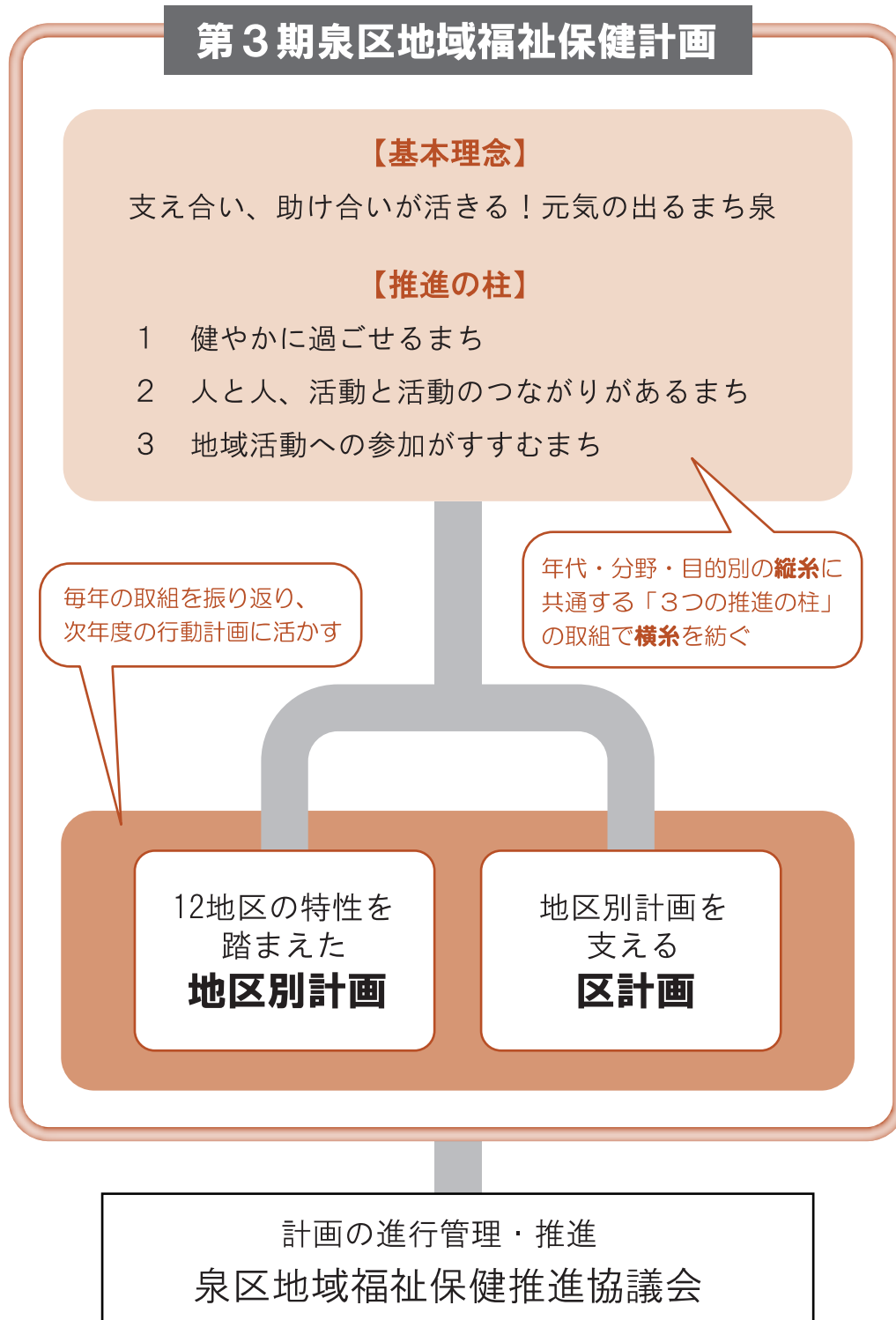
(3) 区計画

区計画は、第3章「区計画」で掲げた内容に基づき、年度ごとに具体的な事業計画を作成し、実行します。その結果を点検し、次年度の事業計画へ反映させるというPDCAサイクルの視点を持って取り組みます。さらに、地域福祉保健推進協議会などで共有することで、進行管理を行います。

なお、最終振り返りにあたっては、区民意識の変化について確認し、その結果も参考としながら次期計画の策定に活かしていきます。

平成26年度区民意識調査での調査項目（調査結果）	関連する内容
健康づくりに意識して取り組んでいる（46.9%）	健やかにすごせるまち
自治会・町内会活動など、地域のつながりが深い（そう思う＋どちらかと言えばそう思う：44.3%）	人と人、活動と活動のつながりがあるまち
地域活動へ参加している（25.3%）	地域活動への参加がすすむまち

第3期泉区地域福祉保健計画の体系図



1 第3期泉区地域福祉保健計画策定の経緯

時期	第2期計画	第3期計画	推進協議会	策定委員会	意見聴取等
26年7月			7/15 推進協議会 策定方法の説明	推進協議会の分科会として、 策定委員会を設置 推進協議会委員を構成する地区・ 団体の中から15名で組織	
8月	地区別計画 第2期振り返し	地区別計画 第3期策定			区民意識調査 対象3,000人、回収数1,588通
9月	区計画 第2期振り返し				
10月	地区別計画 第2期振り返し			10/30 策定委員会 ① 第2期区計画の振り返し・課題整理	
11月					12地区意見交換会 地区別計画に関わる方を中心に、各地区1回実施 出席者合計：203名
12月	振り返り まとめ			12/11 策定委員会 ② 第3期区計画の方向性検討	
27年1月			1/28 推進協議会 区計画骨子案検討	1/15 策定委員会 ③ 区計画骨子案の内容検討	
2月					
3月		区計画骨子確定		3/12 策定委員会 ④ 区計画素案の方向性検討	
4月					
5月				5/14 策定委員会 ⑤ 区計画素案の内容検討	
6月					
7月		区計画素案確定	7/29 推進協議会 区計画素案検討	7/9 策定委員会 ⑥ 区計画素案の内容検討	
8月					8/10～9/9 区計画素案 区民意見募集
9月					
10月					
11月	地区別計画案集約 (11月時点)			11/12 策定委員会 ⑦ 区計画全体案の内容検討	
12月			12/9 推進協議会 第3期計画案検討		
28年1月		区・地区別計画確定			
2月					
		2/27 社会福祉大会にて発表			
3月		計画冊子完成			

第2期計画の振り返り及び第3期計画策定のため、平成26年11月～12月に、泉区内12地区で意見交換会を開催しました。

この意見交換会では、地域におけるこれまでの活動の振り返りや課題等について意見を伺い、地区別計画策定に活かしていただくとともに、各地区に共通する課題などは整理したうえで、区計画検討のための基礎資料としました。

主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ○健康になるには歩くことが大事と感じてもらいたい ○健康体操は、健康になるだけでなく見守りにつながる ○60歳で高齢者と意識せず高齢化を楽しもう ○地域が見守る体制など、置かれている環境で子育てしやすさが変わる ○小学生・中学生の放課後の居場所があるとよい ○近い範囲での見守り等、隣近所での見守りについて話し合ってもらいたい ○一人暮らしの人への食事会の開催は見守りにもなっている ○積極的に手助けするより、自立した生活を目指してもらおう方がよい ○認知症の人への介護には、地域の力が必要だ ○地域の中に声をかけても出てこない人がいて、心配だ 	<p style="text-align: center;">推進の柱1 健やかに過ごせるまち</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○懇談会が活動団体をつなぐ場として継続するとよい ○周囲との連携が大事で、点を線につなげていく必要がある ○団体同士の情報交換から新たな発展が期待される ○同じような活動の組織を見直して、横のつながりをつくるのが大事 ○活動を通していろいろな人とつきあえたことが良かった ○「ふるさと」の絆を取り戻すことを大切に考えたい ○地域のお祭りには近隣の障害者施設も地域の一員として参加している 	<p style="text-align: center;">推進の柱2 人と人、活動と活動の つながりがあるまち</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○子ども達から笑顔をいっぱいもらえることがやりがいになる ○10年後、地域がどうなったら気持ちよく過ごせるかを考えて活動したい ○まずは参加してもらい楽しみから知ってもらいたい。外に出ていけば自然と元気がわいてくる ○楽しそうに地域活動をしていると興味を持ってもらえる ○負担感があるので軽減できると若い世代も呼び込める可能性がある ○色々な役が回ってくるが、最終的には楽しんでやっている ○井戸端会議のような中で、「口づて」で伝わる形が大事 ○「これ楽しいよ」と地域活動の楽しさを伝える一ひねりした工夫が必要 ○地福と意識していなくても自分達が行っている活動そのものが地福 ○楽しそうな活動が地域での地福計画の浸透につながる 	<p style="text-align: center;">推進の柱3 地域活動への参加が すすむまち</p>

敬称略

分野	地区・組織名	委員氏名
地区代表	中川地区	石田 五十六
	緑園地区	菅野 英夫
	新橋地区	筒井 勝大
	和泉北部地区	成澤 誠
	和泉中央地区	笠井 尚子
	下和泉地区	鈴木 昭次郎
	富士見が丘地区	鈴木 光政
	上飯田地区	田代 孝造
	上飯田団地地区	佐野 瞳
	いちょう団地地区	高野 淳
	中田地区	森脇 晋
しらゆり地区	林 純弘	
医療	泉区医師会	鈴木 正比古
	泉区訪問看護ステーション連絡会	濱野 佐知子
	泉歯科医師会	本間 雅之
	泉区薬剤師会	伊東 正彦
	泉区獣医師会	小山 幸伸
高齢	泉区民生委員児童委員協議会	内藤 義幸
	泉区老人福祉施設施設長研究会	倉本 恵造
	泉区シニアクラブ連合会	江口 隆人

分野	地区・組織名	委員氏名
障 害	泉地域活動ホーム かがやき	牧 信宏
	泉区生活支援センター 芽生え	霜島 隆晴
	泉区障がい福祉支援協議会(IHネット)	伊東 宏信
こども・子育て	泉区地域子育て支援拠点 すきっぷ	泉 直子
	泉区保育園園長会	吉岡 善美
	泉区主任児童委員連絡会	益子 眞弓
	泉区小学校長会	田中 秀仁
健康づくり	泉区食生活等改善推進員会	大久保 誠
	泉区保健活動推進員会	白幡 純子
	泉区食品衛生協会	伊東 實
	泉区生活衛生協議会	歌川 常敬
防災・防犯	泉警察署	竹村 誠司
	泉消防署	山本 昭博
	泉区災害ボランティア連絡会	乾 英昭
担い手	泉区ボランティアネットワーク	江尻 哲二
全 体	泉区社会福祉協議会	大貫 芳夫
	学識経験者(田園調布学園大学人間福祉学部 教授)	村井 祐一
	泉区地域ケアプラザ所長会	生田 純也
	泉区福祉保健センター	堀川 尚実

(平成27年12月現在)

敬称略

分野	地区・組織名	氏名
地区代表	富士見が丘地区	鈴木 光政
	上飯田地区	馬場 勝己
	上飯田団地地区	佐野 瞳
医療	泉区医師会	小林 英雄
高齢	泉区民生委員児童委員協議会	石田 五十六
	泉区老人福祉施設施設長研究会	宮原 学
障害	泉地域活動ホーム かがやき	牧 信宏
こども・子育て	泉区地域子育て支援拠点 すきっぷ	中島 恵子（～27年6月） 泉 直子（27年7月～）
	泉区主任児童委員連絡会	益子 眞弓
健康づくり	泉区保健活動推進委員会	白幡 純子
担い手	泉区ボランティアネットワーク	今村 光夫
地域ケアプラザ	泉区地域ケアプラザ所長会	生田 純也
	いずみ中央地域ケアプラザ	堀口 孝幸（～27年9月）
区役所	泉区福祉保健センター長	堀川 尚実
	泉区福祉保健センター担当部長	池尻 恵子

(平成27年11月現在)



支え合い・助け合いが活きる!元氣の出るまち泉
第3期泉区地域福祉保健計画

横浜市泉区役所福祉保健センター福祉保健課

横浜市泉区和泉町4636番地2
☎ 045-800-2433
☎ 045-800-2516
✉ iz-fukuho@city.yokohama.jp

社会福祉法人 横浜市泉区社会福祉協議会

横浜市泉区和泉中央南5丁目4番13号
☎ 045-802-2150
☎ 045-804-6042
✉ normalize@shakyo-iy.or.jp